

7. 健康について

(1) 主観的健康感

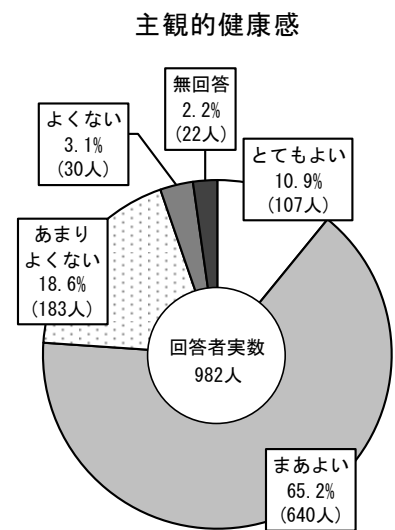
健康状態について尋ねたところ、「まあよい」が 65.2%で圧倒的に高くなっています。また、「とてもよい」は 10.9%で、これら 2つを合わせると、76.1%が健康と回答しています。

性別で見ると、この設問についての男女別の差はほとんどありません。

年齢別に見ると、「とてもよい」と「まあよい」を合わせた“健康”は年齢が上がるともに割合が減少する傾向にあります。

“健康”は 65 歳～69 歳が 81.2%、70 歳～74 歳が 80.1%、85 歳以上では 63.2%と 6 割弱へと下がっています。また、「あまりよくない」と「よくない」を合わせた“健康ではない”は年齢が上がるともに割合も上昇する傾向にあり、65 歳～69 歳では 17.0%ですが、85 歳以上では 34.7%となっています。

幸福度別に見ると、“健康”は 10 点(とても幸せ)が 87.9%、4 点～6 点(普通)が 65.8%、0 点(幸福ではない)はいません。幸福度が高いと“健康”と感じている割合が高くなります。反対に、“健康ではない”は 10 点が 10.8%、4 点～6 点が 32.8%、0 点が 100.0%で、幸福度が低いと“健康ではない”と答えた割合が高いです。



主観的健康感（性別、年齢別）

	回答者実数	とてもよい	まあよい	あまりよくない	よくない	無回答
男性	438 人	11.2% (49 人)	64.4% (282 人)	19.6% (86 人)	2.7% (12 人)	2.1% (9 人)
女性	544 人	10.7% (58 人)	65.8% (358 人)	17.8% (97 人)	3.3% (18 人)	2.4% (13 人)
65 歳～69 歳	282 人	13.1% (37 人)	68.1% (192 人)	15.6% (44 人)	1.4% (4 人)	1.8% (5 人)
70 歳～74 歳	291 人	11.7% (34 人)	68.4% (199 人)	15.5% (45 人)	2.1% (6 人)	2.4% (7 人)
75 歳～79 歳	167 人	12.0% (20 人)	65.9% (110 人)	18.0% (30 人)	2.4% (4 人)	1.8% (3 人)
80 歳～84 歳	147 人	7.5% (11 人)	57.1% (84 人)	25.2% (37 人)	6.8% (10 人)	3.4% (5 人)
85 歳以上	95 人	5.3% (5 人)	57.9% (55 人)	28.4% (27 人)	6.3% (6 人)	2.1% (2 人)

主観的健康感（幸福度別）

	回答者実数	とてもよい	まあよい	あまりよくない	よくない	無回答
0 点 (幸福ではない)	4 人	0.0% (0 人)	0.0% (0 人)	75.0% (3 人)	25.0% (1 人)	0.0% (0 人)
1 点～3 点 (やや幸福ではない)	29 人	10.3% (3 人)	34.5% (10 人)	34.5% (10 人)	20.7% (6 人)	0.0% (0 人)
4 点～6 点 (普通)	281 人	1.4% (4 人)	64.4% (181 人)	29.2% (82 人)	3.6% (10 人)	1.4% (4 人)
7 点～9 点 (やや幸せ)	444 人	9.5% (42 人)	74.5% (331 人)	12.8% (57 人)	1.1% (5 人)	2.0% (9 人)
10 点 (とても幸せ)	166 人	33.1% (55 人)	54.8% (91 人)	7.2% (12 人)	3.6% (6 人)	1.2% (2 人)

(2) 主観的幸福感

現在の幸福感について、「とても幸せ」を10点、「幸福ではない」を0点として、回答していただきました。

「8点」(幸せ)が21.0%、「5点」(普通)が17.9%、「10点」(とても幸せ)が16.9%と比較的高くなっています。

性別で見ると、「5点」は男性が高く、「10点」は女性が高くなっています。幸福感は女性が男性より高い傾向が見られます。

年齢別に見ると、「5点」では年齢が上がるとともに割合が上昇する傾向がみられます。「10点」では75歳以上になると、割合が下がる傾向にあります。

主観的幸福感（性別、年齢別）

	回答者実数	0点 (幸福ではない)	1点	2点	3点	4点	5点
全体	982人	0.4% (4人)	0.5% (5人)	0.7% (7人)	1.7% (17人)	2.4% (24人)	17.9% (176人)
男性	438人	0.2% (1人)	0.5% (2人)	0.7% (3人)	2.5% (11人)	2.7% (12人)	20.8% (91人)
女性	544人	0.6% (3人)	0.6% (3人)	0.7% (4人)	1.1% (6人)	2.2% (12人)	15.6% (85人)
65歳～69歳	282人	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.7% (2人)	1.4% (4人)	3.5% (10人)	13.1% (37人)
70歳～74歳	291人	1.0% (3人)	0.3% (1人)	0.7% (2人)	2.4% (7人)	1.4% (4人)	17.9% (52人)
75歳～79歳	167人	0.0% (0人)	1.2% (2人)	0.6% (1人)	1.2% (2人)	2.4% (4人)	19.2% (32人)
80歳～84歳	147人	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.7% (1人)	2.0% (3人)	2.0% (3人)	24.5% (36人)
85歳以上	95人	1.1% (1人)	2.1% (2人)	1.1% (1人)	1.1% (1人)	3.2% (3人)	20.0% (19人)

	回答者実数	6点	7点	8点	9点	10点 (とても幸せ)	無回答
全体	982人	8.2% (81人)	13.8% (136人)	21.0% (206人)	10.4% (102人)	16.9% (166人)	5.9% (58人)
男性	438人	10.5% (46人)	12.8% (56人)	20.5% (90人)	8.9% (39人)	14.4% (63人)	5.5% (24人)
女性	544人	6.4% (35人)	14.7% (80人)	21.3% (116人)	11.6% (63人)	18.9% (103人)	6.3% (34人)
65歳～69歳	282人	7.1% (20人)	17.7% (50人)	22.7% (64人)	13.1% (37人)	17.7% (50人)	2.8% (8人)
70歳～74歳	291人	10.0% (29人)	14.8% (43人)	19.6% (57人)	10.0% (29人)	17.9% (52人)	4.1% (12人)
75歳～79歳	167人	8.4% (14人)	11.4% (19人)	21.6% (36人)	10.8% (18人)	17.4% (29人)	6.0% (10人)
80歳～84歳	147人	6.8% (10人)	10.9% (16人)	21.1% (31人)	8.8% (13人)	15.6% (23人)	7.5% (11人)
85歳以上	95人	8.4% (8人)	8.4% (8人)	18.9% (18人)	5.3% (5人)	12.6% (12人)	17.9% (17人)

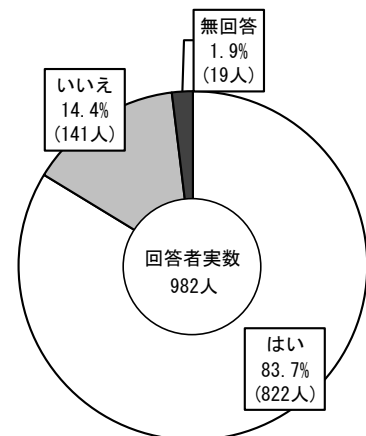
(3) 人とふれあう機会

① 人とふれあう機会の有無

人とふれあう機会の有無について尋ねたところ、「はい」が83.7%と大半を占めています。

反対に、「いいえ」と答えた人が14.4%となっており、1割半ば程度の人が人とふれあう機会がないことがわかります。

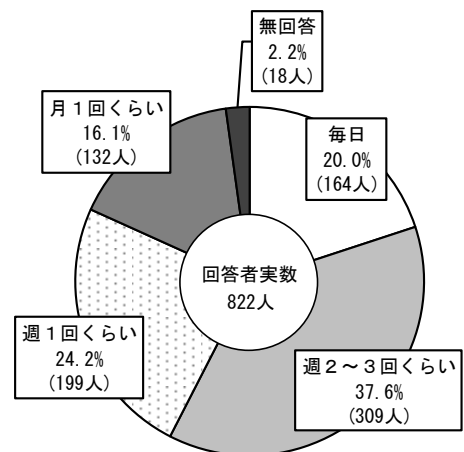
人とふれあう機会の有無



② 人とふれあう機会の頻度

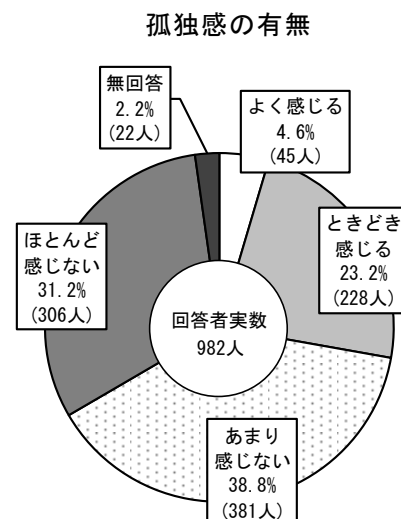
人とふれあう機会の頻度については、「週2～3回」が37.6%と最も多く、「週1回くらい」が24.2%、「毎日」が20.0%となっています。

人とふれあう機会の頻度



(4) 孤独感の有無

孤独感については、「あまり感じない」が 38.8%、「ほとんど感じない」が 31.2%でこれらを合わせた“孤独感なし”の回答は 70.0%となっています。反対に、「よく感じる」が 4.6%、「ときどき感じる」が 23.2%であり、合わせると“孤独感あり”の回答が 27.8%と約 3 割が孤独を感じていることがわかります。



孤独感について主観的幸福度別で見ると、主観的幸福度が「0点(幸福ではない)」、「1点～3点(やや幸福ではない)」では孤独感を「よく感じる」と孤独を感じている割合が高く、反対に「7点～9点(やや幸せ)」では孤独を「あまり感じない」、「10点(とても幸せ)」では孤独を「ほとんど感じない」という割合が最も高くなっています。

孤独感の有無（幸福度別）

	回答者実数	よく感じる	ときどき感じる	あまり感じない	ほとんど感じない	無回答
0点 (幸福ではない)	4人	75.0% (3人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	25.0% (1人)
1点～3点 (やや幸福ではない)	29人	44.8% (13人)	27.6% (8人)	13.8% (4人)	13.8% (4人)	0.0% (0人)
4点～6点 (普通)	281人	6.4% (18人)	37.7% (106人)	38.4% (108人)	16.0% (45人)	1.4% (4人)
7点～9点 (やや幸せ)	444人	1.4% (6人)	20.5% (91人)	46.2% (205人)	31.5% (140人)	0.5% (2人)
10点 (とても幸せ)	166人	1.2% (2人)	4.8% (8人)	30.7% (51人)	61.4% (102人)	1.8% (3人)

孤独感について家族構成別で見ると、孤独を「よく感じる」は、「1人暮らし」が最も高く10.4%あるほか、「ときどき感じる」が33.0%あり、これらを合わせると43.4%を占めます。

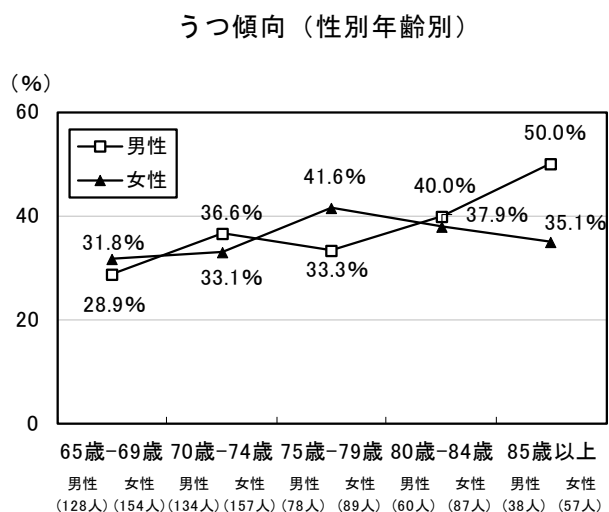
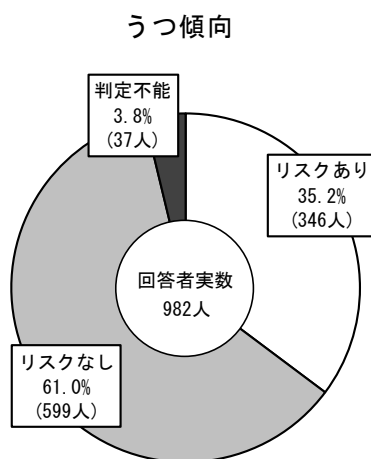
孤独感の有無（家族構成別）

	回答者実数	よく感じる	ときどき感じる	あまり感じない	ほとんど感じない	無回答
1人暮らし	182人	10.4% (19人)	33.0% (60人)	39.6% (72人)	15.4% (28人)	1.6% (3人)
夫婦2人暮らし (配偶者が65歳以上)	379人	1.8% (7人)	20.3% (77人)	42.2% (160人)	34.3% (130人)	1.3% (5人)
夫婦2人暮らし (配偶者が64歳以下)	32人	3.1% (1人)	18.8% (6人)	34.4% (11人)	43.8% (14人)	0.0% (0人)
配偶者以外と 2人暮らし	72人	6.9% (5人)	29.2% (21人)	31.9% (23人)	26.4% (19人)	5.6% (4人)
3人以上の同居世帯	252人	3.2% (8人)	17.9% (45人)	37.7% (95人)	38.5% (97人)	2.8% (7人)
その他	43人	7.0% (3人)	39.5% (17人)	23.3% (10人)	27.9% (12人)	2.3% (1人)

(5) うつ傾向（リスク者）

うつ傾向のリスク者は35.2%となっています。

性別年齢別で見ると、女性は、75歳～79歳の41.6%をピークに85歳以上では35.1%と減少しています。逆に男性は75歳～79歳の33.3%から上昇し、85歳以上では50.0%と半数を占めます。



(6) 喫煙、飲酒の状況

① 喫煙の状況

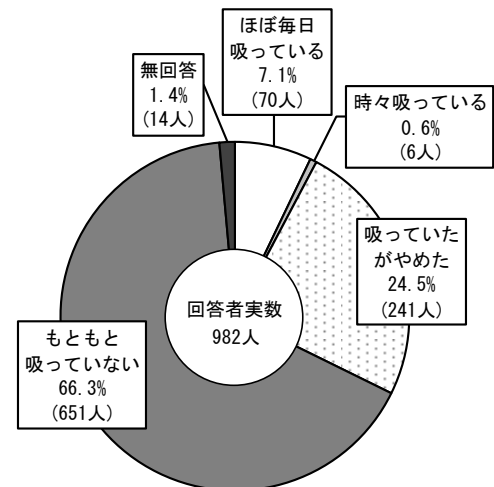
喫煙について見ると、「もともと吸っていない」の66.3%が喫煙の経験がないとしています。次いで「吸っていたがやめた」が25.4%で、これら2つを合わせると、現在喫煙していない高齢者が90.8%と9割を占めます。

喫煙している高齢者は8.7%で、「ほぼ毎日吸っている」が7.1%、「時々吸っている」が0.6%となっています。

喫煙の状況を性別で見ると、「ほぼ毎日吸っている」、「時々吸っている」、「吸っていたがやめた」はそれぞれ男性の方が高く、特に「吸っていたがやめた」は男性の47.9%を占めています。また、女性では「もともと吸っていない」が89.0%で、9割近くの女性が喫煙経験はないと回答しています。

年齢別で見ると、「ほぼ毎日吸っている」は65歳～69歳が12.4%で最も多く、それ以外の年代は10%未満となっています。また、「もともと吸っていない」は年齢が上がるともに増加する傾向にあり、65歳～69歳の58.5%が、85歳以上では73.7%を占めています。

喫煙の状況



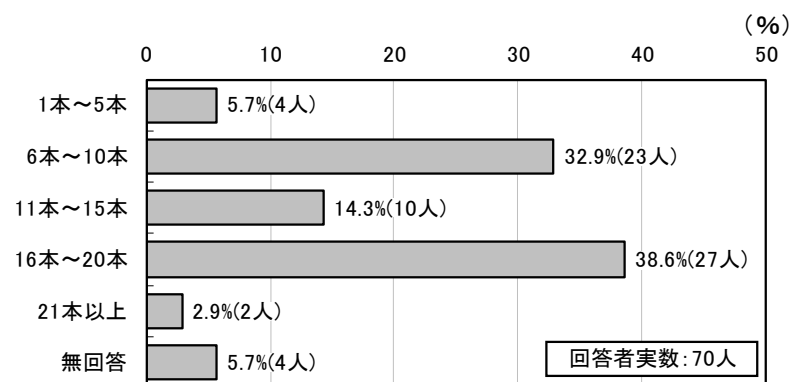
喫煙の状況（性別、年齢別）

	回答者 実数	ほぼ毎日 吸っている	時々 吸っている	吸っていたが やめた	もともと 吸っていない	無回答
男性	438 人	12.1% (53 人)	0.7% (3 人)	47.9% (210 人)	38.1% (167 人)	1.1% (5 人)
女性	544 人	3.1% (17 人)	0.6% (3 人)	5.7% (31 人)	89.0% (484 人)	1.7% (9 人)
65 歳～69 歳	282 人	12.4% (35 人)	0.7% (2 人)	27.3% (77 人)	58.5% (165 人)	1.1% (3 人)
70 歳～74 歳	291 人	5.8% (17 人)	1.0% (3 人)	25.8% (75 人)	66.0% (192 人)	1.4% (4 人)
75 歳～79 歳	167 人	4.8% (8 人)	0.0% (0 人)	24.0% (40 人)	70.1% (117 人)	1.2% (2 人)
80 歳～84 歳	147 人	4.8% (7 人)	0.7% (1 人)	20.4% (30 人)	72.8% (107 人)	1.4% (2 人)
85 歳以上	95 人	3.2% (3 人)	0.0% (0 人)	20.0% (19 人)	73.7% (70 人)	3.2% (3 人)

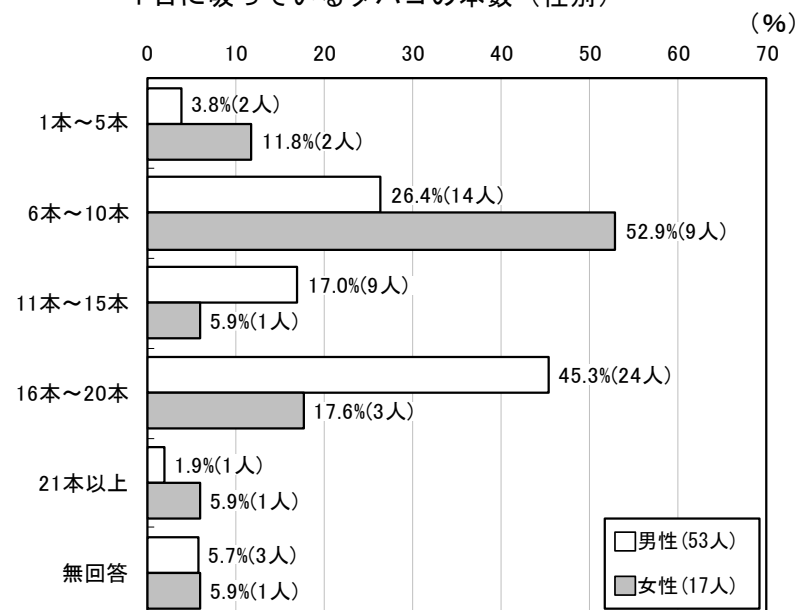
喫煙について、「ほぼ毎日吸っている」と答えた方が、1日に何本吸っているか尋ねたところ、「16本～20本」が38.6%と最も高く、次いで、「6本～10本」が32.9%となります。タバコは一箱に20本程度入っていることから、1日一箱や、1日半箱など決めている方が多いと思われます。

性別に見ると、男性は、「16本～20本」が45.3%と最も多く、「6本～10本」が26.4%となります。女性は、男性と逆転し、「6本～10本」が52.9%と最も多く、「16本～20本」が17.6%となります。

1日に吸っているタバコの本数



1日に吸っているタバコの本数（性別）



②飲酒の状況

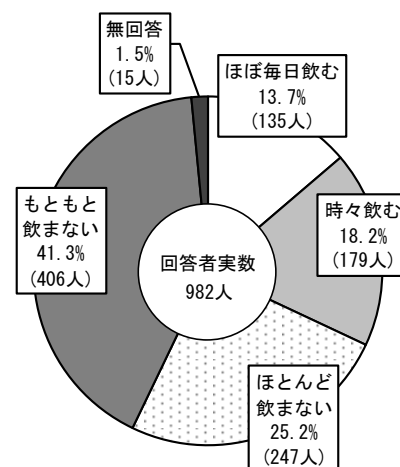
飲酒について見ると、「もともと飲まない」は41.3%が飲酒経験なしと回答しています。次いで「ほとんど飲まない」が25.2%で、飲酒しない人とほとんど飲まない人を合わせると66.5%となります。

「ほぼ毎日飲む」は13.7%、「時々飲む」は18.2%で、これら2つを合わせると飲酒する人は31.9%を占めています。

性別で見ると、「ほぼ毎日飲む」、「時々飲む」は男性が女性より高く、また「ほとんど飲まない」も男性がやや高くなっています。「もともと飲まない」は女性が高く、62.3%を占めています。

年齢別に見ると、飲酒者は65歳～69歳が最も高く、年齢が上がるとともに飲酒する割合は下がる傾向にあります。また、「ほとんど飲まない」は各世代の差はあまりなく、「もともと飲まない」は年代が上がる割合も上がっています。

飲酒の状況



飲酒の状況（性別、年齢別）

	回答者 実数	ほぼ毎日飲む	時々飲む	ほとんど 飲まない	もともと 飲まない	無回答
男性	438人	27.4% (120人)	27.6% (121人)	27.9% (122人)	15.3% (67人)	1.8% (8人)
女性	544人	2.8% (15人)	10.7% (58人)	23.0% (125人)	62.3% (339人)	1.3% (7人)
65歳～69歳	282人	19.1% (54人)	26.2% (74人)	23.4% (66人)	30.1% (85人)	1.1% (3人)
70歳～74歳	291人	16.8% (49人)	15.5% (45人)	29.6% (86人)	37.1% (108人)	1.0% (3人)
75歳～79歳	167人	13.2% (22人)	16.2% (27人)	25.7% (43人)	43.7% (73人)	1.2% (2人)
80歳～84歳	147人	5.4% (8人)	15.0% (22人)	21.8% (32人)	55.8% (82人)	2.0% (3人)
85歳以上	95人	2.1% (2人)	11.6% (11人)	21.1% (20人)	61.1% (58人)	4.2% (4人)

(7) 疾病の状況

① 全体的な状況

疾病の状況を見ると、「高血圧」が 48.4%を占めており、他の疾病と比べて圧倒的に高くなっています。高血圧以外では、「心臓病」、「糖尿病」、「高脂血症(脂質異常)」、「筋骨格の病気(骨粗しょう症、関節症等)」、「目の病気」が 1 割台で比較的高いです。

疾病について、一般高齢者と総合事業対象者別に見ると、一般高齢者、総合事業対象者ともに「高血圧」の割合が最も高く、一般高齢者の 4 割半ば、総合事業対象者の 5 割強を占めています。また、総合事業対象者では、「目の病気」と「糖尿病」、「筋骨格の病気」が 2 割前後で一般高齢者より高くなっています。

高血圧の予防対策はもとより、転倒予防をはじめとした筋骨格の病気予防、糖尿病や目の病気の予防を元気なうちから行うことが肝要です。

疾病の状況（総合事業対象者一般高齢者別）

	回答者 実数	ない	高血圧	脳卒中 (脳出血・ 脳梗塞等)	心臓病	糖尿病	高脂血症 (脂質異常)	呼吸器の病気 (肺炎や気管 支炎等)
全体	982 人	14.8% (145 人)	48.4% (475 人)	4.3% (42 人)	10.7% (105 人)	15.1% (148 人)	14.2% (139 人)	4.6% (45 人)
総合事業 対象者	257 人	6.2% (16 人)	51.4% (132 人)	5.1% (13 人)	14.8% (38 人)	20.6% (53 人)	12.5% (32 人)	8.6% (22 人)
一般高齢者	668 人	18.3% (122 人)	47.0% (314 人)	3.1% (21 人)	9.0% (60 人)	12.4% (83 人)	15.7% (105 人)	2.8% (19 人)

	回答者 実数	胃腸・肝臓・ 胆のうの病気	腎臓の 病気	前立腺の 病気	筋骨格の病気 (骨粗しょう 症、関節症等)	外傷 (転倒・骨折等)	がん (悪性新生物)	血液・ 免疫の病気
全体	982 人	4.6% (45 人)	3.8% (37 人)	6.0% (59 人)	12.0% (118 人)	3.0% (29 人)	3.2% (31 人)	1.3% (13 人)
総合事業 対象者	257 人	7.0% (18 人)	6.6% (17 人)	6.6% (17 人)	19.5% (50 人)	6.2% (16 人)	2.7% (7 人)	2.3% (6 人)
一般高齢者	668 人	3.6% (24 人)	2.7% (18 人)	5.7% (38 人)	9.0% (60 人)	1.3% (9 人)	3.3% (22 人)	0.9% (6 人)

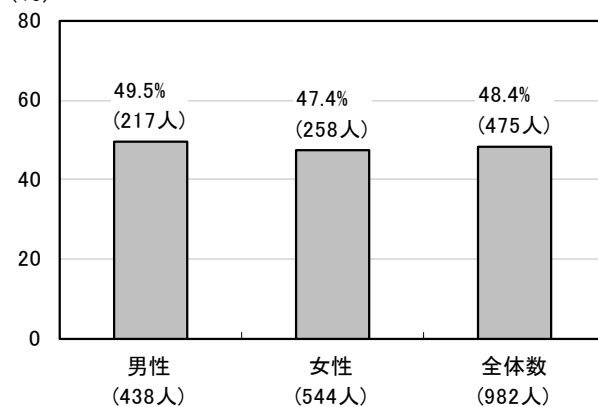
	回答者 実数	うつ病	認知症 (アルツハイ マー病等)	パーキン ソン病	目の病気	耳の病気	その他	無回答
全体	982 人	1.1% (11 人)	1.5% (15 人)	0.2% (2 人)	17.7% (174 人)	6.9% (68 人)	11.8% (116 人)	4.5% (44 人)
総合事業 対象者	257 人	1.2% (3 人)	4.3% (11 人)	0.8% (2 人)	21.0% (54 人)	10.9% (28 人)	11.7% (30 人)	2.3% (6 人)
一般高齢者	668 人	1.0% (7 人)	0.6% (4 人)	0.0% (0 人)	15.9% (106 人)	5.1% (34 人)	11.5% (77 人)	5.1% (34 人)

②高血圧

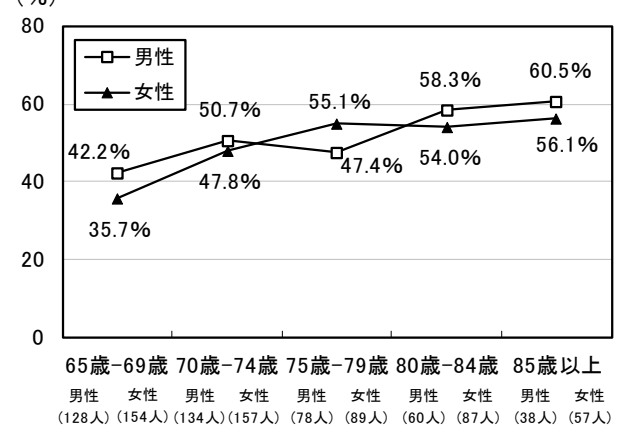
高血圧の該当者(回答者)を性別で見ると、男性は49.5%、女性は47.4%で、男女の差はほとんどありません。

性別年齢別で見ると、男性は65歳～69歳では42.4%、85歳以上で60.5%となっています。女性でも、65歳～69歳は35.7%となっていますが、年齢が上がるとともに割合も上昇する傾向にあり、85歳以上では56.1%となります。

高血圧（性別）



高血圧（性別年齢別）

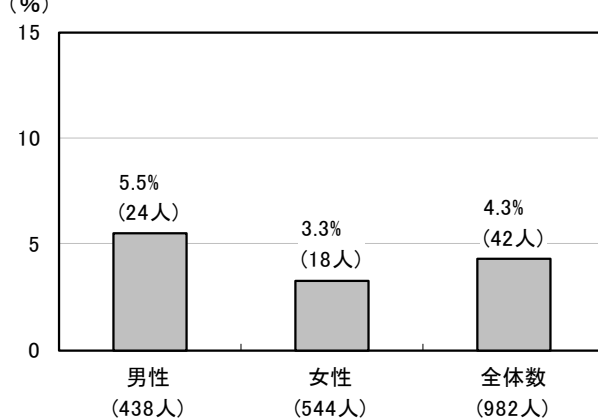


③脳卒中（脳出血・脳梗塞等）

脳卒中の該当者(回答者)を性別で見ると、男性は5.5%、女性は3.3%で、僅かながら男性の方が高くなっています。

対象者が少数のため参考となりますが、性別年齢別で見ると、65歳～69歳、70歳～74歳では女性が多く、75歳～79歳、80歳～84歳、85歳以上では男性が多くなります。全体的に見ると男性が多い傾向にあります。

脳卒中（脳出血・脳梗塞等）（性別）



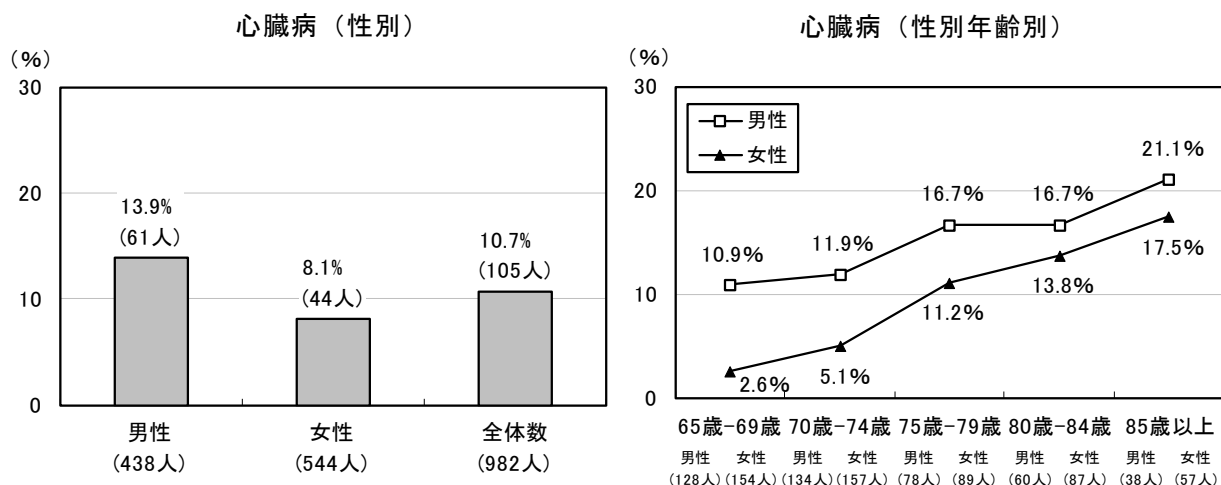
脳卒中（脳出血・脳梗塞等）（性別年齢別）

	男性	女性
65歳～69歳	2人	4人
70歳～74歳	5人	7人
75歳～79歳	7人	5人
80歳～84歳	8人	2人
85歳以上	2人	0人
計	24人	18人

④心臓病

心臓病の該当者(回答者)を性別で見ると、男性は13.9%、女性は8.1%で、僅かながら男性の方が高くなっています。

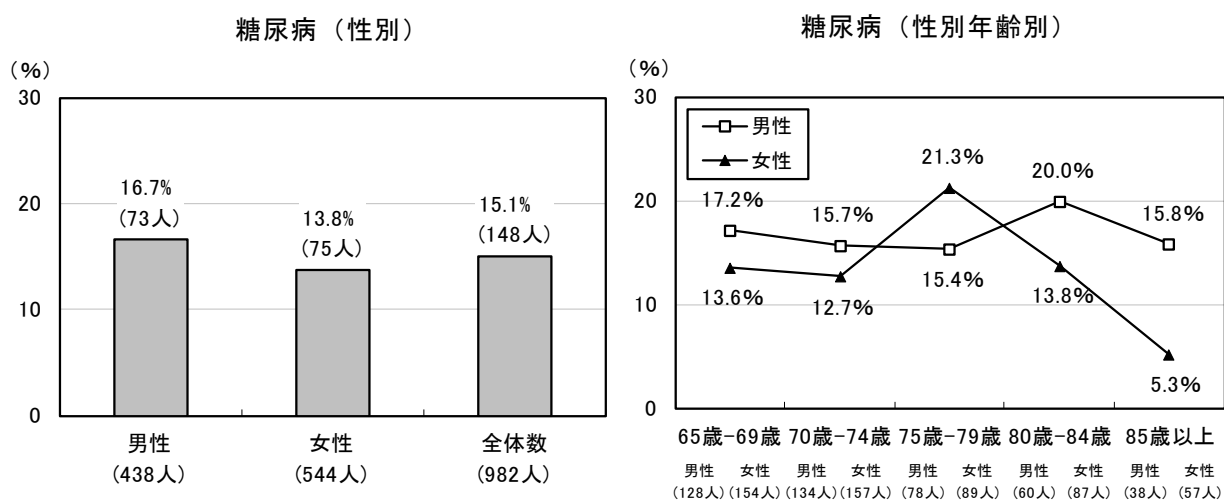
性別年齢別で見ると、男性は65歳～69歳は10.9%ですが、85歳以上は21.1%となります。女性では、65歳～69歳では2.6%で、85歳以上は17.5%となります。各年代で男性が多くなります。



⑤糖尿病

糖尿病の該当者(回答者)を性別で見ると、男性は16.7%、女性は13.8%で、やや男性の方が高くなっています。

性別年齢別で見ると、男性は80歳～84歳の20.0%が最も高くなっています。女性は、75歳～79歳の21.3%が最も高く、80歳～84歳で13.8%、85歳以上では5.3%と急激に減少しています。

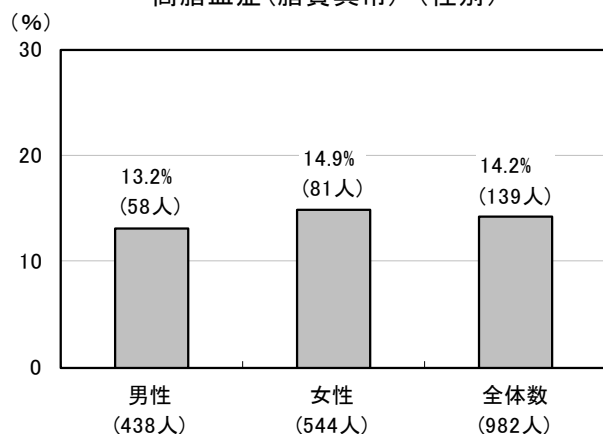


⑥高脂血症（脂質異常）

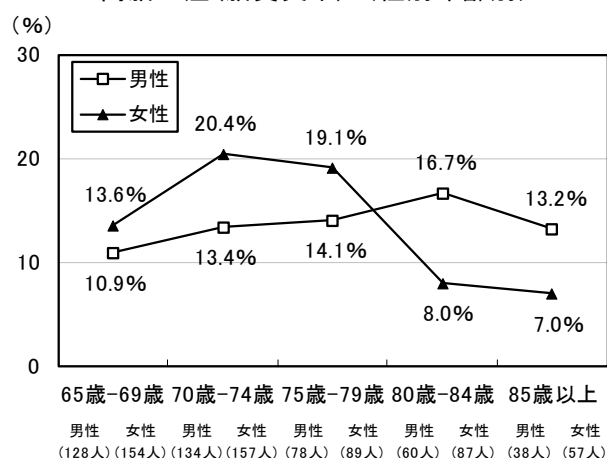
高脂血症の該当者（回答者）を性別で見ると、男性は13.2%、女性は14.9%で、女性の方が高くなっています。

性別年齢別で見ると、男性は65歳～69歳が10.9%、年齢が上がるにつれ上昇し、80歳～84歳の16.7%が最も高く、85歳以上では13.2%とすこし減少します。女性は70歳～74歳の20.4%と最も高く、75歳～79歳は19.1%、80歳～84歳で8.0%と急激に減少し、85歳以上では7.0%となります。

高脂血症（脂質異常）（性別）



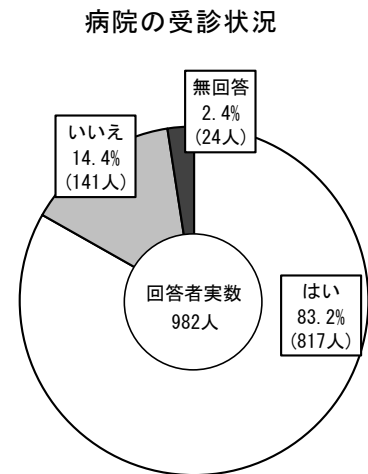
高脂血症（脂質異常）（性別年齢別）



(8) 病院の受診

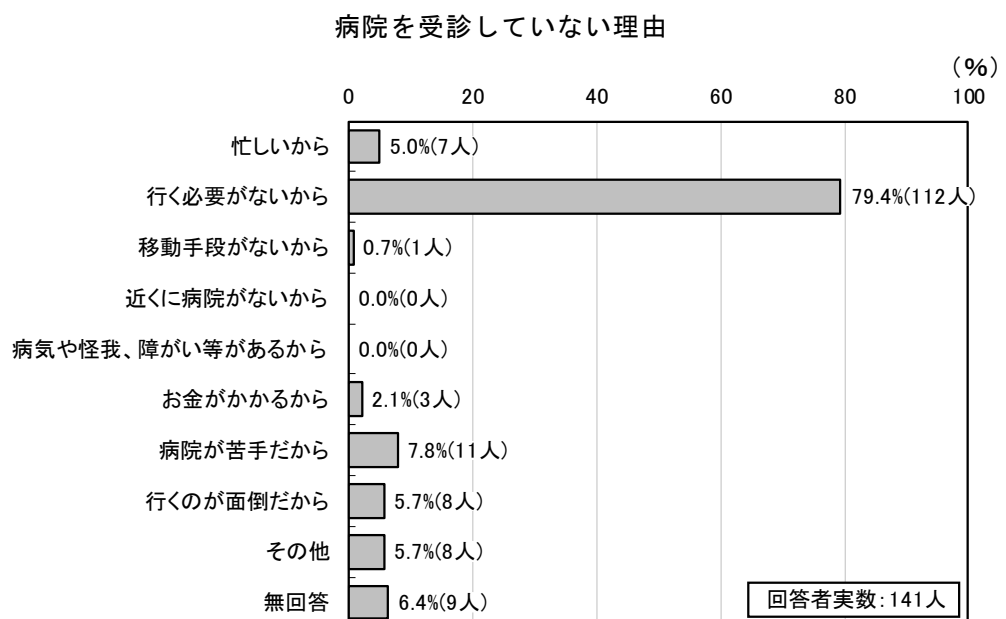
①病院の受診状況

病院の受診状況について尋ねたところ、「はい(受診している)」が83.2%、「いいえ(受診していない)」が14.4%となっており、8割強が病院で治療を受けています。



②病院を受診していない理由

「いいえ」と答えた人に病院を受診していない理由について尋ねると、「行く必要がないから」が79.4%と圧倒的に高くなっています。「忙しいから」、「移動手段がないから」、「お金がかかるから」、「病院が苦手だから」、「行くのが面倒だから」、「その他」は10%未満となっています。

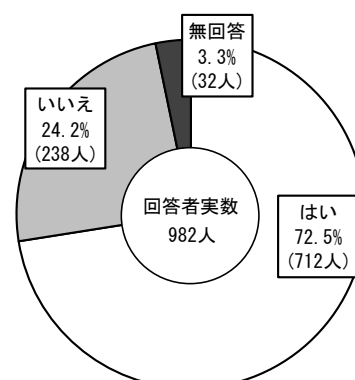


(9) 健康診断の受診

①健康診断の受診状況

年1回、健康診断の受診状況について尋ねたところ、「はい(受診している)」が72.5%、「いいえ(受診していない)」が24.2%となっており、7割強が健康診断を受けています。

健康診断の受診状況



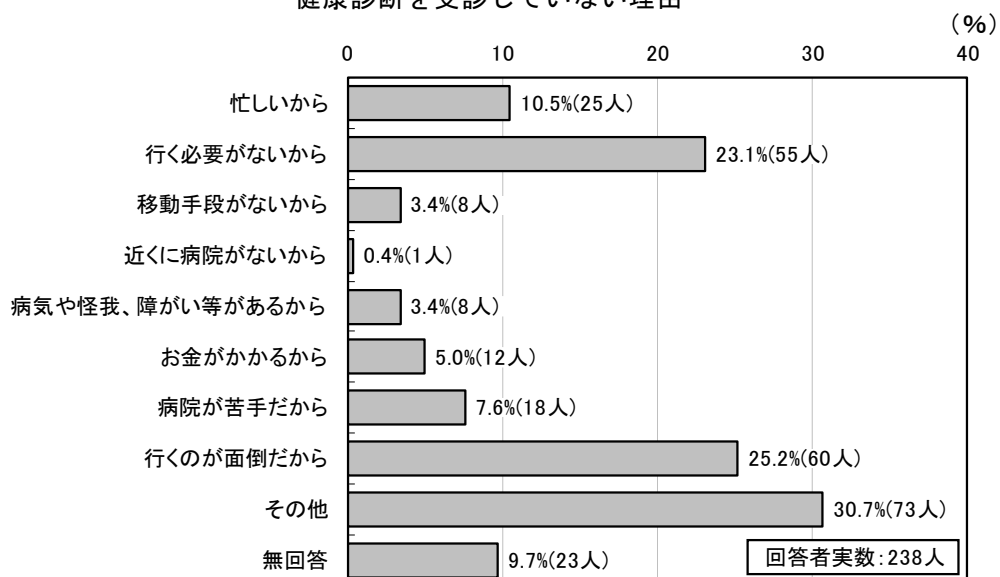
②健康診断を受診していない理由

「いいえ」と答えた人に健康診断を受診していない理由について尋ねると、「行くのが面倒だから」が25.2%、「行く必要がないから」が23.1%となっています。

また、その他が一番多く30.7%

また、「その他」が30.7%(73人)ありますが、67.1%(49人)の記述が「病院に通院」「病院で検査」等の理由です。8.2%(6人)は、「新型コロナの感染予防」を理由としています。そのほか、「行きそびれ」「今年から行く」「こわいから」等になります。

健康診断を受診していない理由

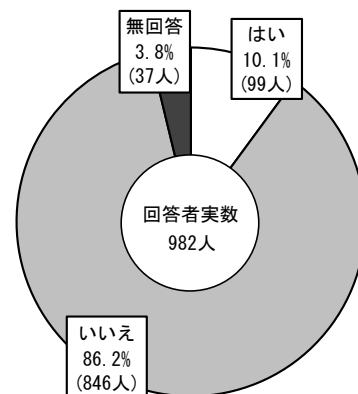


8. 認知症にかかる相談窓口の把握について

(1) 家族に認知症の方がいるか

家族に認知症の方がいるか尋ねたところ、「いいえ」が 86.2%と大半を占めています。「はい」は 10.1%となっており、約 1 割の人が家族に認知症の方がいると答えています。

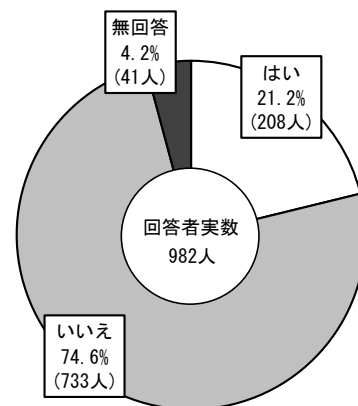
家族に認知症の方がいるか



(2) 認知症に関する相談窓口を知っているか

認知症に関する相談窓口の認知について尋ねたところ、「はい(知っている)」という回答は 21.2%で、相談窓口を知っている人は、およそ 5 人に 1 人となっています。反対に、「いいえ(知らない)」は 74.6%で、7 割半ばの人は認知症に関する相談窓口について知らないと答えています。

認知症に関する
相談窓口を知っているか

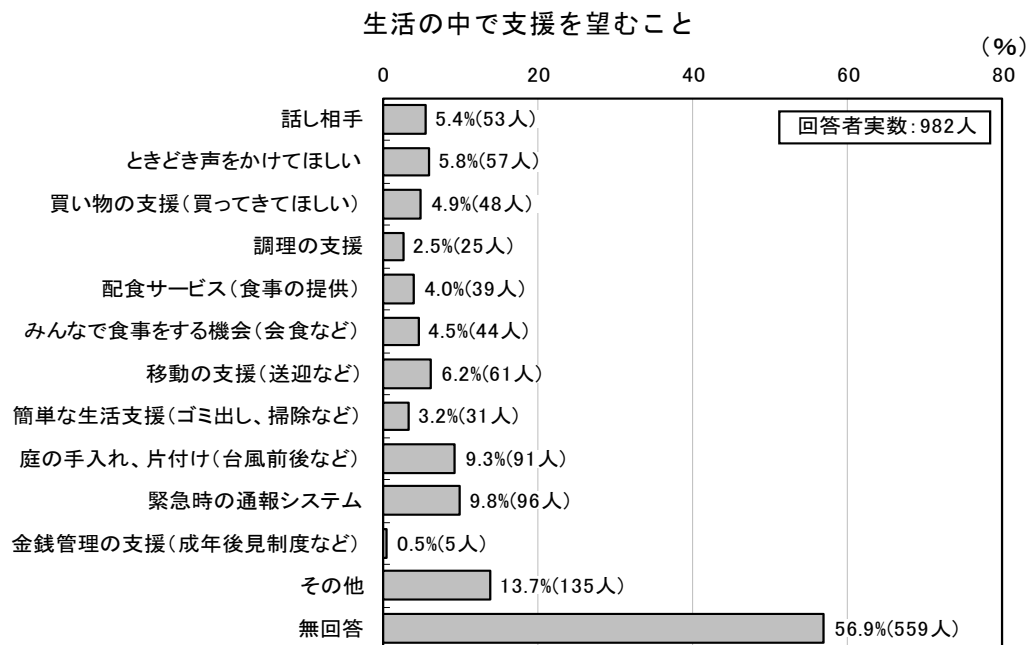


9. その他

(1) 生活の中で支援を望むこと

生活の中で支援を望むことを尋ねたところ、「緊急時の通報システム」が 9.8%、「庭の手入れ、片付け（台風前後など）」が 9.3%となっています。

また、「その他」が 13.7% (135 人) ありますが、80.0% (108 人) の記述が「今はない」「特にない」等の理由です。無回答の 56.9% (559 人) にも同じ考えが含まれていると思われます。そのほか、「年金が少ない」「学費の支払い」「耳が聞こえない」等となります。



一般高齢者と総合事業対象者を比べると、支援を望む声は全般的に総合事業対象者の方で高くなっています。中でも、「移動の支援(送迎など)」が 9.2 ポイント、「庭の手入れ、片づけ(台風前後など)」「ときどき声をかけてほしい」「買い物の支援(買ってきてほしい)」が 7.5~7.9 ポイント差があり、他の支援希望との差より大きくなっています。

生活の中で支援を望むこと（総合事業対象者・一般高齢者別）

	回答者 実数	話し相手	ときどき声を かけてほしい	買い物の支援 (買ってきて ほしい)	調理の支援	配食サービス (食事の提供)	みんなで食事 をする機会 (会食など)	移動の支援 (送迎など)
総合事業 対象者	257 人	8.9% (23 人)	10.9% (28 人)	10.1% (26 人)	6.2% (16 人)	8.6% (22 人)	6.6% (17 人)	12.5% (32 人)
一般高齢者	668 人	3.6% (24 人)	3.4% (23 人)	2.5% (17 人)	1.2% (8 人)	1.9% (13 人)	4.0% (27 人)	3.3% (22 人)
「総合事業」と「一般高齢」の差		5.3	7.5	7.6	5.0	6.7	2.6	9.2

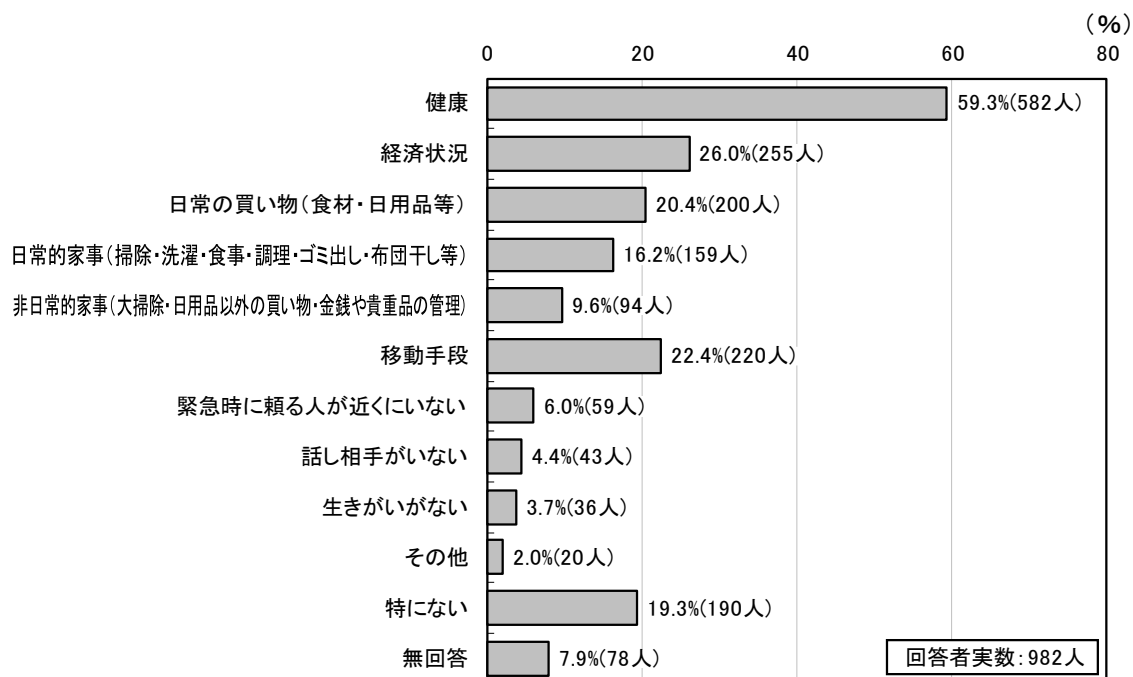
	回答者 実数	簡単な生活支 援(ゴミ出し、 掃除など)	庭の手入れ、 片付け(台風 前後など)	緊急時の通報 システム	金銭管理の支 援(成年後見 制度など)	その他	無回答
総合事業 対象者	257 人	7.8% (20 人)	14.8% (38 人)	14.8% (38 人)	0.4% (1 人)	9.7% (25 人)	46.3% (119 人)
一般高齢者	668 人	1.3% (9 人)	6.9% (46 人)	8.1% (54 人)	0.6% (4 人)	16.3% (109 人)	60.6% (405 人)
「総合事業」と「一般高齢」の差		6.5	7.9	6.7	-0.2	-6.6	-14.3

(2) 5年後、10年後、地域で継続して生活し続ける中での不安

5年後、10年後、地域で継続して生活し続ける中での不安を尋ねたところ、「健康」が59.3%と最も高く、次いで、「経済状況」が26.0%、「移動手段」が22.4%、「日常の買い物(食材・日用品等)」が20.4%となります。

また、「特にない」の不安のない方が19.3%います。

5年後、10年後、地域で継続して生活し続ける中での不安

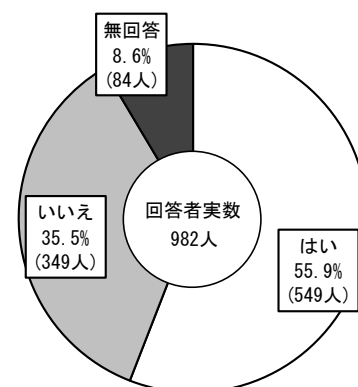


(3) デイサービス以外に地域で気軽に交流ができる場の利用意向

デイサービス以外に地域で気軽に交流ができる場があったら利用したいか意向を尋ねたところ、「はい(利用したい)」が55.9%と半数以上の方が利用したいと答えています。

反対に、「いいえ(利用したいと思わない)」が35.5%となります。

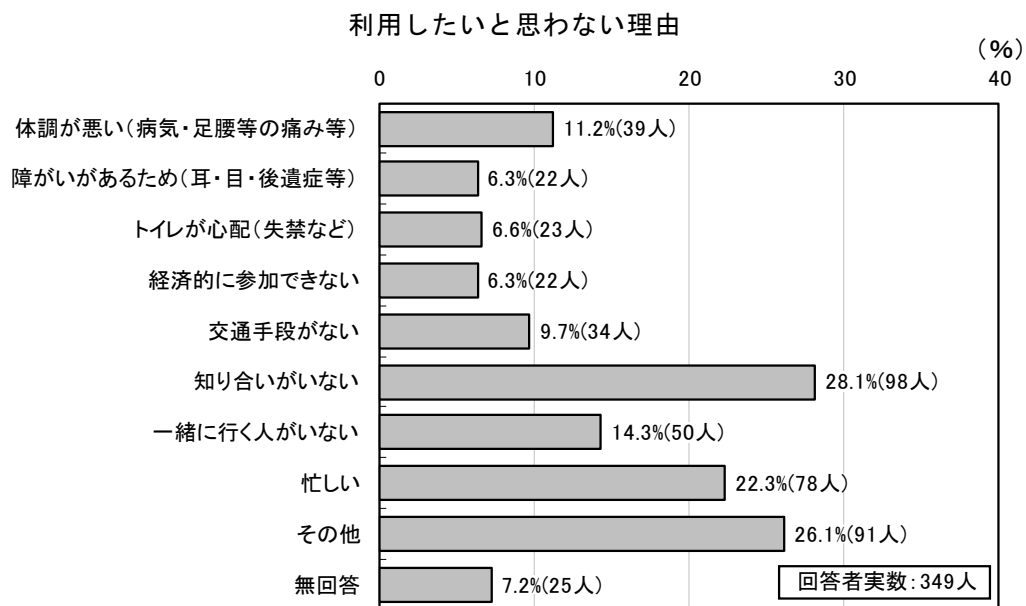
交流ができる場の利用意向



(4) 利用したいと思わない理由

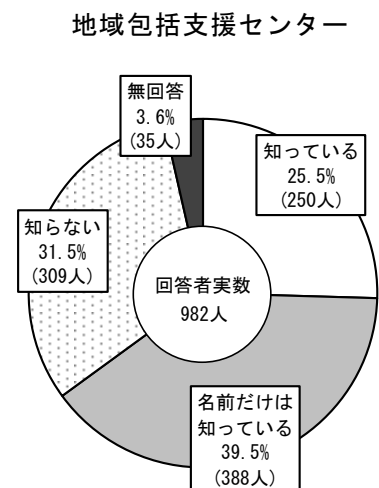
「いいえ(利用したいと思わない)」と答えた人に理由について尋ねると、「知り合いがいない」が28.1%と最も高く、「忙しい」が22.3%、「一緒に行く人がいない」が14.3%となります。

また、「その他」が26.1%(91人)ありますが、35.2%(32人)の記述が「必要がない」「不自由はない」等、19.8%(18人)が「人見知り」「人づきあいが苦手」等の理由です。そのほか、「自治会に加入していない」「まだ早いと思う」「介護や孫の世話」等となります。



(5) 地域包括支援センター

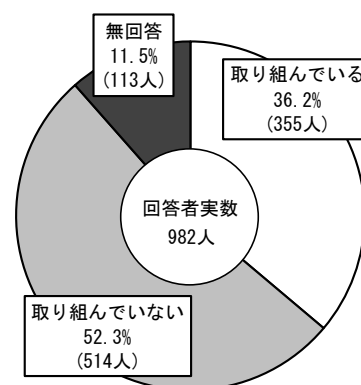
介護や医療、保健、福祉など様々な側面から高齢者を支えるための総合相談ができる地域包括支援センターについて尋ねたところ、「名前だけは知っている」が39.5%と最も高く、「知っている」の25.5%で、合わせると65.0%が知っていると回答しています。また、地域包括支援センターを「知らない」と回答した割合は31.5%と3割を占めています。



(6) 介護予防に取り組んでいるか

介護予防に取り組んでいるか尋ねたところ、「取り組んでいない」が 52.3%と半数を占め、「取り組んでいる」が 36.2%となります。

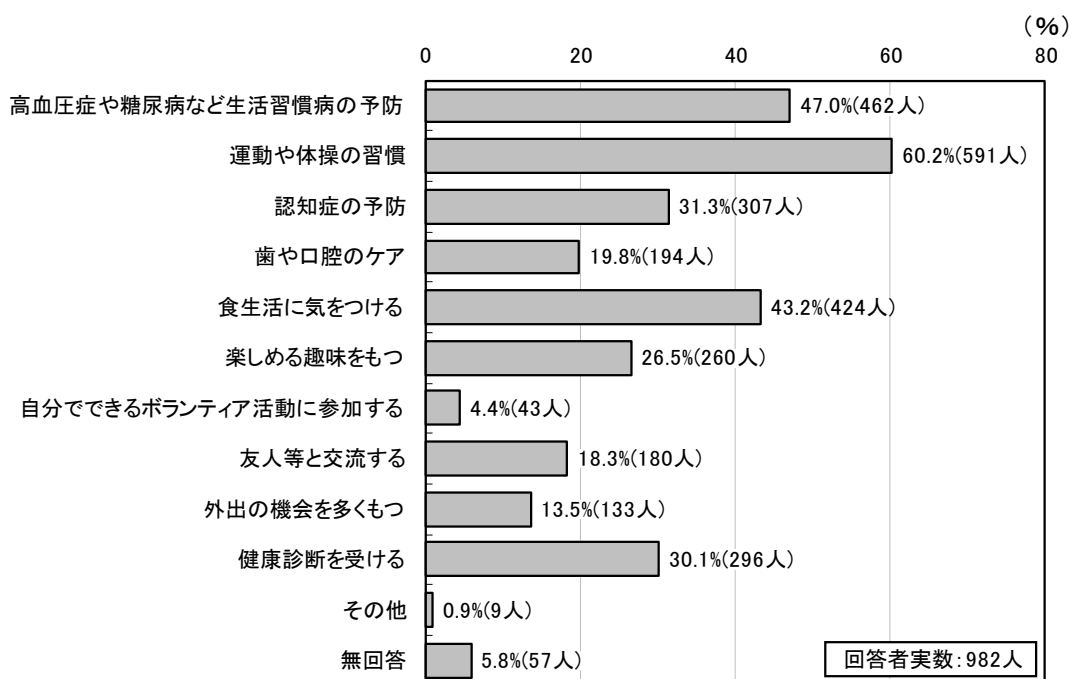
介護予防に取り組んでいるか



(7) 介護予防の上で重要と思われるもの

介護予防の上で重要と思われるものを尋ねたところ、「運動や体操の習慣」が 60.2%と最も高く、次いで、「高血圧症や糖尿病など生活習慣病の予防」が 47.0%、「食生活に気をつける」が 43.2%、「認知症の予防」が 31.3%、「健康診断を受ける」が 30.1%、「楽しめる趣味をもつ」が 26.5%となっています。

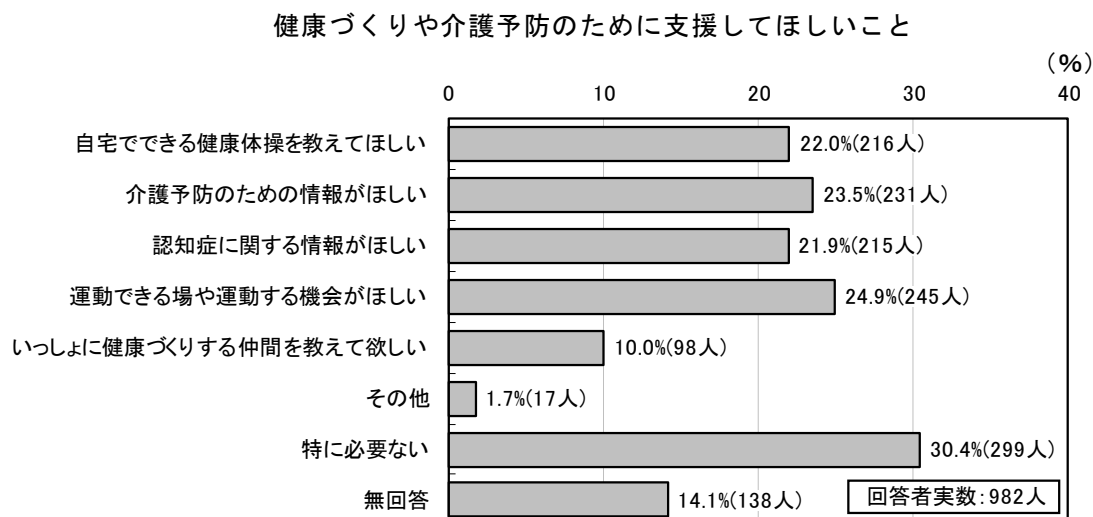
介護予防の上で重要と思われるもの



(8) 健康づくりや介護予防のために支援してほしいこと

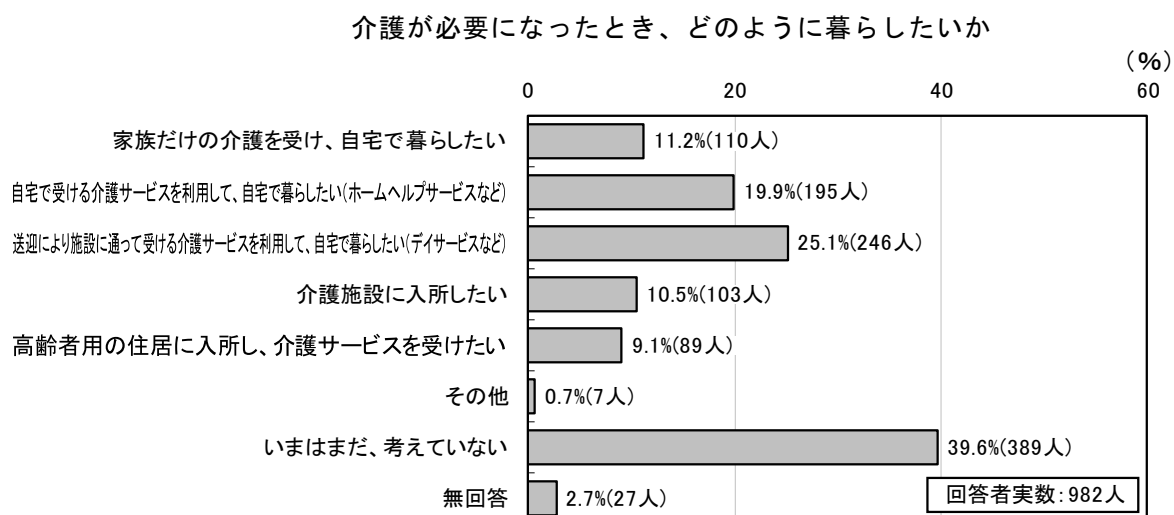
健康づくりや介護予防のために支援してほしいことについて尋ねたところ、「運動できる場や運動する機会がほしい」が24.9%、「介護予防のための情報がほしい」が23.5%、「自宅でできる健康体操を教えてほしい」が22.0%、「認知症に関する情報がほしい」が21.9%となります。

また、「特に必要ない」が30.4%となり、3割は支援の必要がないと回答しています。



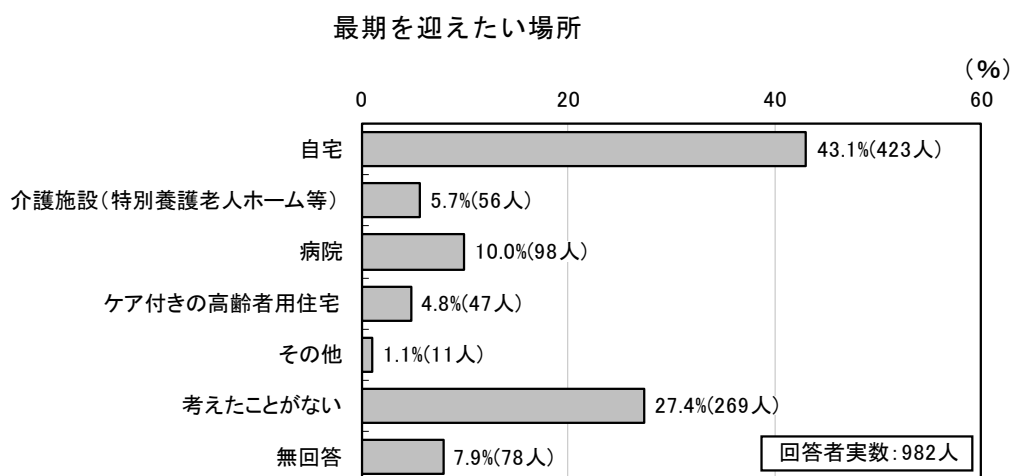
(9) 介護が必要になったとき、どのように暮らしたいか

介護が必要になったとき、どのように暮らしたいか尋ねたところ、「いまはまだ、考えていない」が最も高く39.6%で4割近くを占めます。具体的な回答としては、「送迎により施設に通って受ける介護サービスを利用して、自宅で暮らしたい(デイサービスなど)」が25.1%、「自宅で受ける介護サービスを利用して、自宅で暮らしたい(ホームヘルプサービスなど)」が19.9%、「家族だけの介護を受け、自宅で暮らしたい」が11.2%、「介護施設に入所したい」が10.5%となっています。



(10) 最期を迎えたい場所

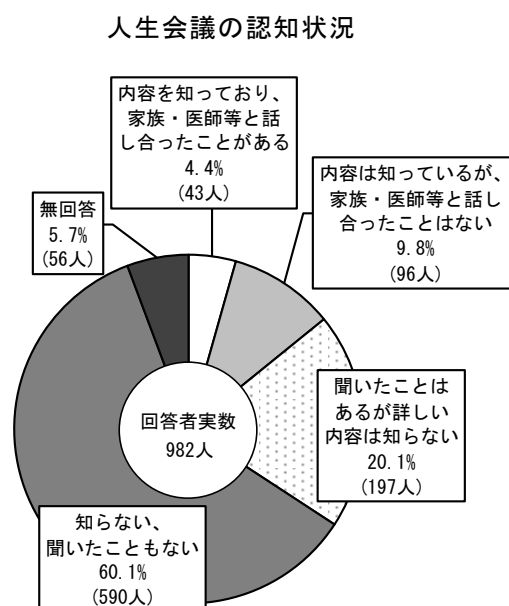
最期を迎えたい場所は、「自宅」が43.1%で最も高く、次いで「病院」が10.0%となっていますが、一方で、27.4%が「考えたことがない」と回答しています。



(11) 人生会議の認知状況

人生会議の認知状況は、「知らない、聞いたこともない」が60.1%と最も高く、「聞いたことはあるが詳しい内容は知らない」が20.1%で、合わせると知らない・内容は知らないは、80.2%と大半が詳しく知らないことになります。

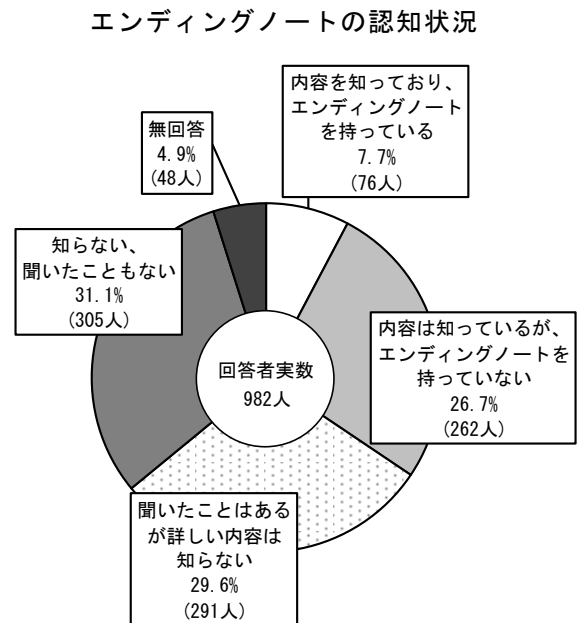
内容を知っているのは、「内容は知っているが、家族・医師等と話し合ったことはない」が9.8%、「内容を知っており、家族・医師等と話し合ったことがある」が4.4%を合わせた14.2%となります。



(12) エンディングノートの認知状況

エンディングノートの認知状況は、「内容を知っており、エンディングノートを持っている」が7.7%、「内容は知っているが、エンディングノートを持っていない」が26.7%を合わせた34.4%と3割程度は内容を知っていますが、実際に持っているのは1割にも満たない状況です。

「知らない、聞いたこともない」が31.1%と最も高く、内容を知っていると同じく3割程度が知らない。「聞いたことはあるが詳しい内容は知らない」が29.6%と合わせると60.7%と6割は詳しい内容は知らないとなります。

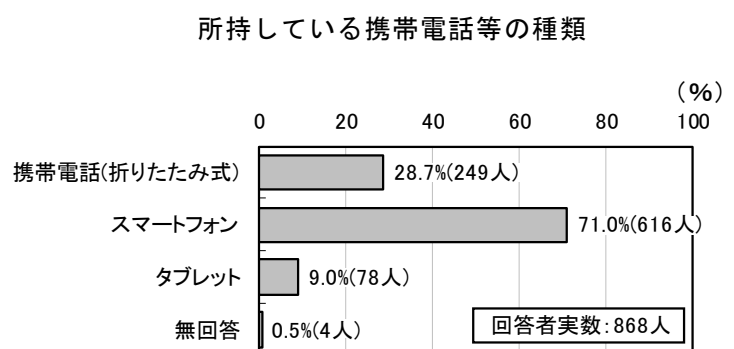
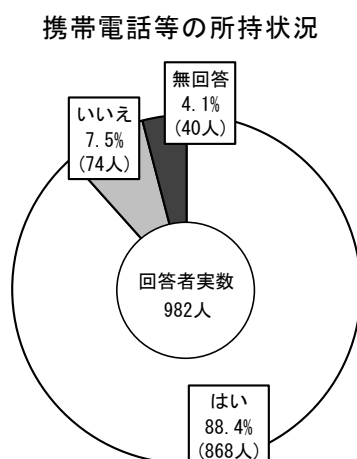


(13) 携帯電話（折りたたみ式、スマートフォン）やタブレット等について

①所持状況

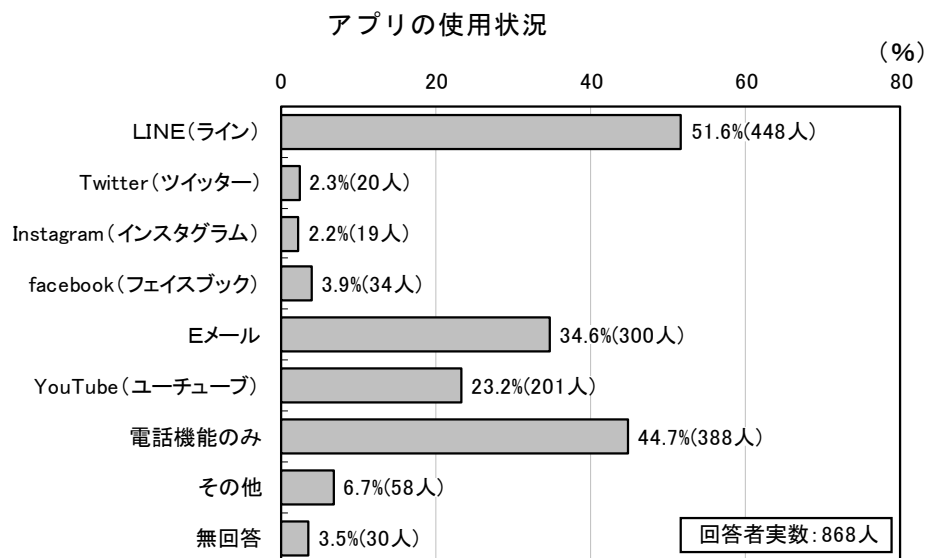
携帯電話（折りたたみ式、スマートフォン）やタブレット等の所持について、所持している割合は88.4%と、約9割となります。

また、持っている方に所持している携帯電話の種類を尋ねたところ、「スマートフォン」が71.0%と最も高く、次いで、「携帯電話（折りたたみ式）」が28.7%、「タブレット」が9.0%となります。



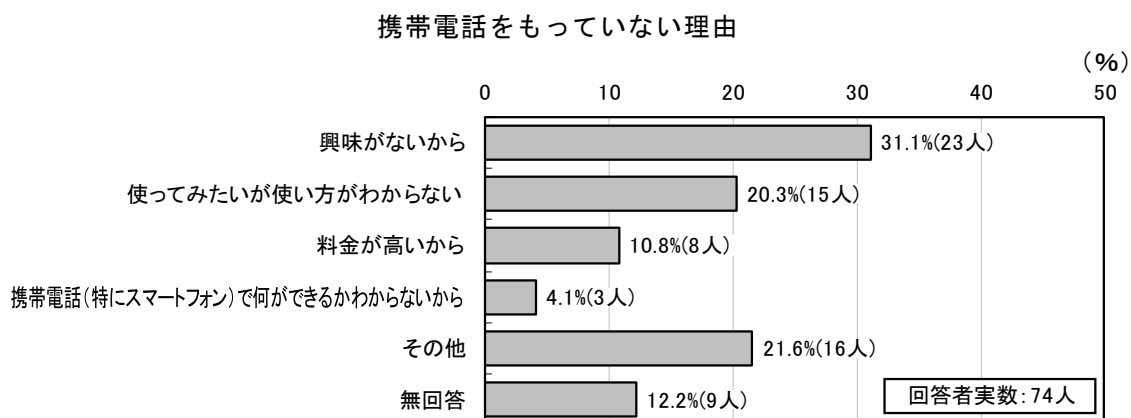
②アプリの使用状況

携帯電話等を所持している人のアプリ使用について、「LINE(ライン)」が 51.6%と最も高く、次いで、「電話機能のみ」が 44.7%、「Eメール」が 34.6%、「YouTube(ユーチューブ)」が 23.2%となります。



③携帯電話をもっていない理由

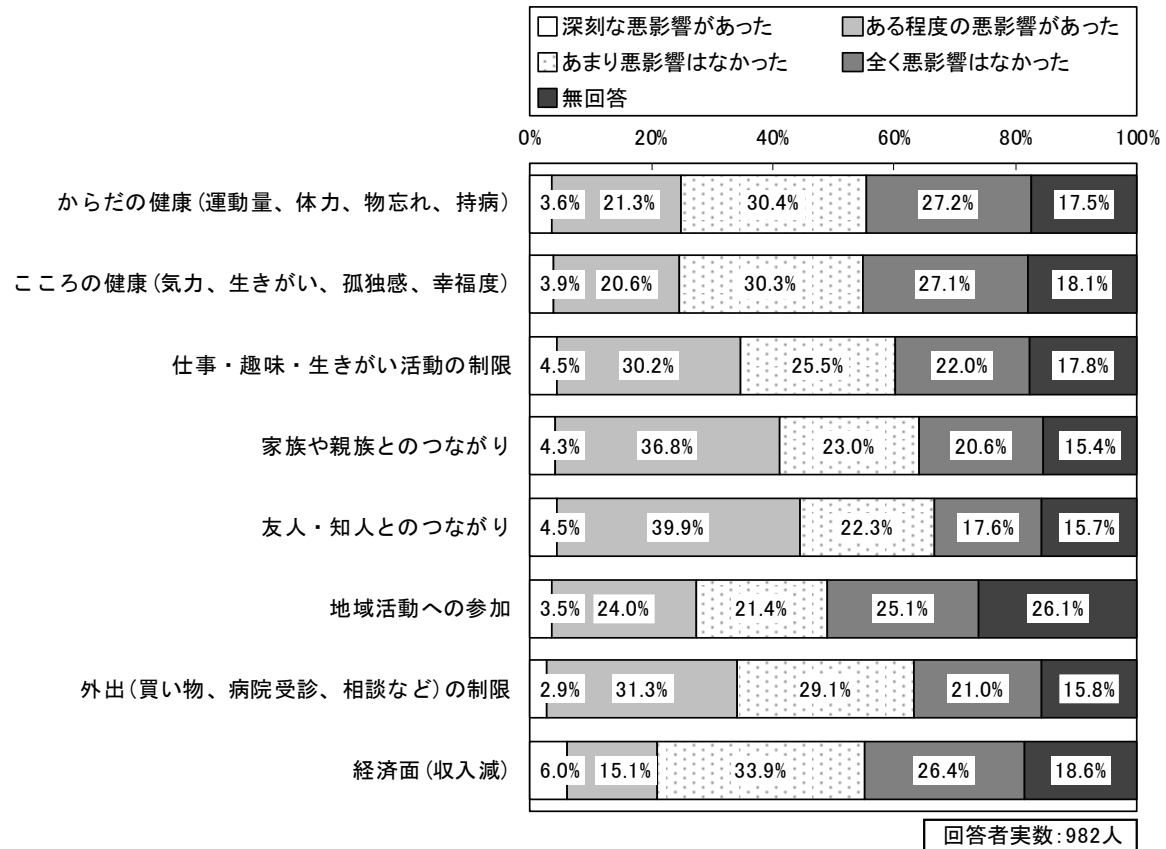
携帯電話をもっていない理由を尋ねたところ、「興味がないから」が 31.1%と最も高く、次いで、「使ってみたいが使い方がわからない」が 20.3%となっています。



(14) 新型コロナウイルス禍による影響について

新型コロナウイルス禍による悪影響(「深刻な悪影響があった」と「ある程度の悪影響があった」の和)が最も高かったのは「友人・知人とのつながり」が44.4%、次いで「家族や親族とのつながり」が41.0%、「仕事・趣味・生きがい活動の制限」が34.7%、「外出(買い物、病院受診、相談など)の制限」が34.1%となっています。

新型コロナウイルス禍の前と比べて日常生活に悪影響があったか



10. リスク者等の状況

(1) 圏域別リスク者割合の比較

リスク者の割合について見ると、市全体では、「社会的役割の低下」が最も高く 55.2%、次いで「知的能動性の低下」が 37.9%、「認知機能低下」が 36.6%、「うつ傾向」が 35.2%と、それぞれ 3 割半ばで比較的高くなっています。

圏域別に見ると、全ての項目において西部が高くなっています。その中でも「閉じこもり傾向」、「うつ傾向」、「認知機能低下」、「知的能動性の低下」の 4 項目は 5 ポイント以上の差があります。

リスク者割合の比較

	回答者実数	総合事業	運動器の機能低下	転倒リスク	閉じこもり傾向	低栄養の傾向	口腔機能低下
全体	982 人	26.2% (257 人)	15.4% (151 人)	27.1% (266 人)	19.1% (188 人)	1.0% (10 人)	19.2% (189 人)
東部	498 人	23.7% (118 人)	13.3% (66 人)	26.5% (132 人)	15.3% (76 人)	0.8% (4 人)	17.3% (86 人)
西部	484 人	28.7% (139 人)	17.6% (85 人)	27.7% (134 人)	23.1% (112 人)	1.2% (6 人)	21.3% (103 人)

	回答者実数	うつ傾向	認知機能低下	I A D L の低下	知的能動性の低下	社会的役割の低下
全体	982 人	35.2% (346 人)	36.6% (359 人)	16.0% (157 人)	37.9% (372 人)	55.2% (542 人)
東部	498 人	32.5% (162 人)	33.9% (169 人)	15.5% (77 人)	34.9% (174 人)	53.6% (267 人)
西部	484 人	38.0% (184 人)	39.3% (190 人)	16.5% (80 人)	40.9% (198 人)	56.8% (275 人)

(2) 世帯構成別リスク者割合の比較

リスク者割合を世帯構成別に見ると、「1人暮らし」では「社会的役割の低下」が60.4%と高く、「知的能動性の低下」が48.9%、「うつ傾向」、「認知機能低下」が3割台となっています。

また、「配偶者以外と2人暮らし」と「その他」の世帯でもリスクの高い項目が多くなっており、「配偶者以外と2人暮らし」では「認知機能の低下」、「総合事業」、「運動器の機能低下」、「認知機能低下」、「社会的役割の低下」が高く、その他の世帯では、「転倒リスク」、「閉じこもり」「うつ傾向」が特に高いです。

リスク者割合の比較（世帯別）

	回答者実数	総合事業	運動器の機能低下	転倒リスク	閉じこもり傾向	低栄養の傾向	口腔機能低下
1人暮らし	182人	25.3% (46人)	17.6% (32人)	23.1% (42人)	19.8% (36人)	2.7% (5人)	18.1% (33人)
夫婦2人暮らし (配偶者が65歳以上)	379人	25.3% (96人)	11.9% (45人)	28.0% (106人)	17.2% (65人)	0.5% (2人)	20.8% (79人)
夫婦2人暮らし (配偶者が64歳以下)	32人	12.5% (4人)	3.1% (1人)	25.0% (8人)	15.6% (5人)	0.0% (0人)	9.4% (3人)
配偶者以外と 2人暮らし	72人	34.7% (25人)	26.4% (19人)	27.8% (20人)	18.1% (13人)	0.0% (0人)	23.6% (17人)
3人以上の同居 世帯	252人	25.4% (64人)	15.9% (40人)	27.8% (70人)	19.0% (48人)	0.4% (1人)	16.7% (42人)
その他	43人	39.5% (17人)	23.3% (10人)	30.2% (13人)	32.6% (14人)	2.3% (1人)	30.2% (13人)

	回答者実数	うつ傾向	認知機能低下	IADL の低下	知的能動性 の低下	社会的役割 の低下
1人暮らし	182人	38.5% (70人)	32.4% (59人)	11.0% (20人)	48.9% (89人)	60.4% (110人)
夫婦2人暮らし (配偶者が65歳以上)	379人	36.4% (138人)	38.3% (145人)	13.5% (51人)	32.2% (122人)	49.1% (186人)
夫婦2人暮らし (配偶者が64歳以下)	32人	21.9% (7人)	15.6% (5人)	12.5% (4人)	31.3% (10人)	56.3% (18人)
配偶者以外と 2人暮らし	72人	34.7% (25人)	52.8% (38人)	22.2% (16人)	43.1% (31人)	59.7% (43人)
3人以上の同居 世帯	252人	32.1% (81人)	34.9% (88人)	19.0% (48人)	35.3% (89人)	59.1% (149人)
その他	43人	44.2% (19人)	39.5% (17人)	25.6% (11人)	48.8% (21人)	51.2% (22人)

(3) 歯の健康状況別リスク者割合の比較

歯の健康状況別にリスク者割合を見ると、かみ合わせについては全ての項目で、「かみ合わせが悪い」人の方が「かみ合わせが良い」人よりリスク者割合が高くなっています。

また、入れ歯や歯の本数との関係を見ると、「歯は10本未満」の方が「歯は10本以上」よりリスク者割合が高い項目が多くなっています。

また、「歯は10本未満」で「入れ歯の利用なし」の方はリスク者割合が高く、9項目が3割以上、7割を超える項目もあります。

「歯は10本未満」で「入れ歯を利用」のリスク者割合は2割台まで下がる項目があります。

歯のかみ合わせが悪い、自分の歯が10本未満で入れ歯を使っていない方は、しっかり噛みしめることが難しくリスクを抱える割合が比較的高いことが見受けられ、歯の健康が心身の健康や介護予防に関連していることがうかがえます。

リスク者割合の比較（歯の状況別）

			回答者 実数	総合事業	運動器の 機能低下	転倒リスク	閉じこもり 傾向	低栄養の傾向	口腔機能低下	
かみ合わせ			良い	763 人	21.6% (165 人)	11.3% (86 人)	24.5% (187 人)	16.6% (127 人)	0.8% (6 人)	15.2% (116 人)
			悪い	185 人	47.0% (87 人)	30.8% (57 人)	36.2% (67 人)	25.9% (48 人)	2.2% (4 人)	37.8% (70 人)
入れ 歯の 状 況	自分の歯は 20 本以上	入れ歯を 利用	124 人	25.0% (31 人)	13.7% (17 人)	25.0% (31 人)	16.9% (21 人)	0.0% (0 人)	14.5% (18 人)	
		入れ歯の 利用なし	288 人	17.4% (50 人)	7.6% (22 人)	25.0% (72 人)	11.1% (32 人)	0.7% (2 人)	13.9% (40 人)	
	自分の歯は 10～19 本	入れ歯を 利用	177 人	28.2% (50 人)	14.1% (25 人)	25.4% (45 人)	19.8% (35 人)	2.3% (4 人)	21.5% (38 人)	
		入れ歯の 利用なし	95 人	27.4% (26 人)	16.8% (16 人)	24.2% (23 人)	21.1% (20 人)	0.0% (0 人)	16.8% (16 人)	
	自分の歯は 10 本未満	入れ歯を 利用	218 人	33.5% (73 人)	20.6% (45 人)	28.0% (61 人)	26.1% (57 人)	1.4% (3 人)	24.8% (54 人)	
		入れ歯の 利用なし	36 人	47.2% (17 人)	36.1% (13 人)	44.4% (16 人)	22.2% (8 人)	0.0% (0 人)	38.9% (14 人)	

			回答者 実数	うつ傾向	認知機能低下	I A D L の低下	知的能動性 の低下	社会的役割 の低下	
かみ合わせ			良い	763 人	31.7% (242 人)	33.0% (252 人)	11.7% (89 人)	34.2% (261 人)	51.9% (396 人)
			悪い	185 人	49.2% (91 人)	50.8% (94 人)	31.4% (58 人)	52.4% (97 人)	67.0% (124 人)
入れ歯 の状況	自分の歯は 20 本以上	入れ歯を 利用	124 人	29.8% (37 人)	27.4% (34 人)	15.3% (19 人)	36.3% (45 人)	56.5% (70 人)	
		入れ歯の 利用なし	288 人	31.3% (90 人)	36.5% (105 人)	6.3% (18 人)	29.9% (86 人)	52.4% (151 人)	
	自分の歯は 10～19 本	入れ歯を 利用	177 人	39.0% (69 人)	36.2% (64 人)	15.8% (28 人)	35.6% (63 人)	48.0% (85 人)	
		入れ歯の 利用なし	95 人	38.9% (37 人)	32.6% (31 人)	18.9% (18 人)	46.3% (44 人)	65.3% (62 人)	
	自分の歯は 10 本未満	入れ歯を 利用	218 人	38.1% (83 人)	41.7% (91 人)	22.5% (49 人)	43.6% (95 人)	56.0% (122 人)	
		入れ歯の 利用なし	36 人	44.4% (16 人)	52.8% (19 人)	33.3% (12 人)	66.7% (24 人)	75.0% (27 人)	

(4) 社会参加別リスク者割合の比較

社会参加の状況について、活動に参加していることでリスクが低い項目を見ると、「収入がある仕事」をしている人では、ほかの活動をしている人よりも「総合事業」、「運動器の機能低下」、「転倒リスク」が低く、筋力低下が少なくなっています。また、「学習・教養サークル」に参加している人は、「IADLの低下」、「知的能動性の低下」、「社会的役割の低下」において、リスクがほかの社会参加より低いです。

リスク者割合の比較（社会参加別）

	回答者実数	総合事業	運動器の機能低下	転倒リスク	閉じこもり傾向	低栄養の傾向	口腔機能低下
ボランティアのグループ	108 人	21.3% (23 人)	7.4% (8 人)	33.3% (36 人)	4.6% (5 人)	0.0% (0 人)	16.7% (18 人)
スポーツ関係のグループやクラブ	219 人	17.8% (39 人)	7.8% (17 人)	21.9% (48 人)	5.0% (11 人)	0.9% (2 人)	12.8% (28 人)
趣味関係のグループ	243 人	16.9% (41 人)	8.2% (20 人)	21.8% (53 人)	9.1% (22 人)	0.4% (1 人)	12.3% (30 人)
学習・教養サークル	85 人	24.7% (21 人)	9.4% (8 人)	25.9% (22 人)	5.9% (5 人)	1.2% (1 人)	21.2% (18 人)
介護予防のための通いの場	115 人	29.6% (34 人)	23.5% (27 人)	39.1% (45 人)	11.3% (13 人)	1.7% (2 人)	20.9% (24 人)
老人クラブ	50 人	30.0% (15 人)	18.0% (9 人)	38.0% (19 人)	12.0% (6 人)	4.0% (2 人)	22.0% (11 人)
自治会	151 人	23.8% (36 人)	8.6% (13 人)	26.5% (40 人)	7.9% (12 人)	0.7% (1 人)	19.9% (30 人)
収入のある仕事	224 人	15.6% (35 人)	3.6% (8 人)	17.4% (39 人)	6.3% (14 人)	0.4% (1 人)	13.8% (31 人)

	回答者実数	うつ傾向	認知機能低下	IADLの低下	知的能動性の低下	社会的役割の低下
ボランティアのグループ	108 人	34.3% (37 人)	41.7% (45 人)	7.4% (8 人)	20.4% (22 人)	34.3% (37 人)
スポーツ関係のグループやクラブ	219 人	26.9% (59 人)	35.2% (77 人)	6.4% (14 人)	26.9% (59 人)	40.6% (89 人)
趣味関係のグループ	243 人	27.6% (67 人)	36.2% (88 人)	4.1% (10 人)	25.1% (61 人)	37.9% (92 人)
学習・教養サークル	85 人	32.9% (28 人)	35.3% (30 人)	2.4% (2 人)	12.9% (11 人)	30.6% (26 人)
介護予防のための通いの場	115 人	24.3% (28 人)	37.4% (43 人)	13.0% (15 人)	31.3% (36 人)	39.1% (45 人)
老人クラブ	50 人	34.0% (17 人)	44.0% (22 人)	16.0% (8 人)	26.0% (13 人)	38.0% (19 人)
自治会	151 人	30.5% (46 人)	35.8% (54 人)	10.6% (16 人)	22.5% (34 人)	42.4% (64 人)
収入のある仕事	224 人	30.4% (68 人)	34.4% (77 人)	6.3% (14 人)	29.5% (66 人)	51.8% (116 人)

(5) 主観的幸福度別リスク者割合の比較

リスク者割合を幸福度別で見ると、「0点(幸福ではない)」は対象者が4人のみとなっているので、「1点～3点(やや幸福ではない)」で見ると、全ての項目でリスク者割合が高くなっています。「うつ傾向」、「社会的役割の低下」、「知的能動性の低下」は、6割～8割を占めます。

また、「1点～3点(やや幸福ではない)」のリスク者割合は、「10点(とても幸せ)」と比較すると「うつ傾向」では66.6ポイントの上昇、「知的能動性の低下」で38.3ポイント、「社会的役割の低下」は37.0ポイントの上昇となっています。「運動器の機能低下」、「転倒リスク」、「口腔機能低下」、「認知機能低下」においても30ポイント前後の上昇となります。

リスク者割合の比較(幸福度別)

	回答者実数	総合事業	運動器の 機能低下	転倒リスク	閉じこもり 傾向	低栄養の傾向	口腔機能低下
0点 (幸福ではない)	4人	50.0% (2人)	25.0% (1人)	50.0% (2人)	50.0% (2人)	25.0% (1人)	50.0% (2人)
1点～3点 (やや幸福ではない)	29人	44.8% (13人)	41.4% (12人)	48.3% (14人)	27.6% (8人)	3.4% (1人)	41.4% (12人)
4点～6点 (普通)	281人	33.8% (95人)	20.3% (57人)	31.3% (88人)	25.3% (71人)	1.1% (3人)	27.0% (76人)
7点～9点 (やや幸せ)	444人	20.9% (93人)	9.7% (43人)	25.9% (115人)	14.2% (63人)	1.1% (5人)	14.2% (63人)
10点 (とても幸せ)	166人	21.1% (35人)	9.6% (16人)	16.3% (27人)	18.1% (30人)	0.0% (0人)	13.3% (22人)

	回答者実数	うつ傾向	認知機能低下	I A D L の低下	知的能動性 の低下	社会的役割 の低下
0点 (幸福ではない)	4人	100.0% (4人)	50.0% (2人)	50.0% (2人)	75.0% (3人)	100.0% (4人)
1点～3点 (やや幸福ではない)	29人	79.3% (23人)	58.6% (17人)	31.0% (9人)	69.0% (20人)	82.8% (24人)
4点～6点 (普通)	281人	53.7% (151人)	42.0% (118人)	21.0% (59人)	48.4% (136人)	66.9% (188人)
7点～9点 (やや幸せ)	444人	28.6% (127人)	34.9% (155人)	11.3% (50人)	30.4% (135人)	48.4% (215人)
10点 (とても幸せ)	166人	12.7% (21人)	27.1% (45人)	10.8% (18人)	30.7% (51人)	45.8% (76人)

(6) 主観的健康観別リスク者割合の比較

リスク者割合を主観的健康観別で見ると、健康ではない（「よくない」、「あまりよくない」）は、全項目でリスク者割合が最も高くなっています。特に、「よくない」においては「うつ傾向」を除く項目で高く、「社会的役割の低下」で9割を超え、「総合事業(の対象者)」、「運動器の機能低下」、「認知機能低下」が7割以上、そのほか「低栄養の傾向」以外の項目では5割以上に及んでいます。

リスク者割合の比較（主観的健康観）

	回答者実数	総合事業	運動器の機能低下	転倒リスク	閉じこもり傾向	低栄養の傾向	口腔機能低下
とてもよい	107 人	7.5% (8 人)	1.9% (2 人)	11.2% (12 人)	5.6% (6 人)	0.0% (0 人)	5.6% (6 人)
まあよい	640 人	20.3% (130 人)	9.1% (58 人)	23.4% (150 人)	16.3% (104 人)	0.5% (3 人)	15.8% (101 人)
あまりよくない	183 人	51.4% (94 人)	36.6% (67 人)	42.1% (77 人)	31.1% (57 人)	2.7% (5 人)	34.4% (63 人)
よくない	30 人	70.0% (21 人)	70.0% (21 人)	63.3% (19 人)	60.0% (18 人)	6.7% (2 人)	53.3% (16 人)

	回答者実数	うつ傾向	認知機能低下	I A D L の低下	知的能動性の低下	社会的役割の低下
とてもよい	107 人	8.4% (9 人)	15.0% (16 人)	6.5% (7 人)	27.1% (29 人)	45.8% (49 人)
まあよい	640 人	30.8% (197 人)	36.4% (233 人)	12.8% (82 人)	36.4% (233 人)	51.3% (328 人)
あまりよくない	183 人	62.3% (114 人)	44.8% (82 人)	27.9% (51 人)	46.4% (85 人)	69.9% (128 人)
よくない	30 人	60.0% (18 人)	76.7% (23 人)	53.3% (16 人)	66.7% (20 人)	93.3% (28 人)

(7) 生きがいの有無別リスク者割合の比較

リスク者割合を生きがいの有無別で見ると、「生きがいがない(思いつかない)」は、全項目でリスク者割合が高くなっています。特に、「社会的役割の低下」が7割半ば、「うつ傾向」、「知的能動性の低下」は5割強、「認知機能低下」は4割強に及んでいます。

リスク者割合の比較（生きがいの有無別）

	回答者実数	総合事業	運動器の機能低下	転倒リスク	閉じこもり傾向	低栄養の傾向	口腔機能低下
生きがいあり	638 人	22.3% (142 人)	11.6% (74 人)	23.7% (151 人)	14.4% (92 人)	0.8% (5 人)	14.7% (94 人)
思いつかない	251 人	36.7% (92 人)	25.5% (64 人)	35.1% (88 人)	29.1% (73 人)	1.6% (4 人)	29.9% (75 人)

	回答者実数	うつ傾向	認知機能低下	I A D L の低下	知的能動性の低下	社会的役割の低下
生きがいあり	638 人	28.7% (183 人)	33.9% (216 人)	11.3% (72 人)	33.4% (213 人)	49.1% (313 人)
思いつかない	251 人	53.8% (135 人)	43.8% (110 人)	28.7% (72 人)	53.0% (133 人)	75.3% (189 人)

(8) 孤独感のリスク者割合の比較

リスク者割合を孤独感の有無別で見ると、ほとんどの項目について、孤独を「よく感じる」人でリスク者割合が非常に高くなっています。特に「うつ傾向」や「社会的役割の低下」で割合が高いです。また、「総合事業(の対象者)」では孤独を「ほとんど感じない」と比べると「よく感じる」人のリスク者割合は 45.3 ポイントも上昇する。「うつ傾向」においては、76.4 ポイントと大きく上昇します。

リスク者割合の比較（孤独感の有無別）

	回答者実数	総合事業	運動器の機能低下	転倒リスク	閉じこもり傾向	低栄養の傾向	口腔機能低下
よく感じる	45 人	60.0% (27 人)	53.3% (24 人)	57.8% (26 人)	40.0% (18 人)	4.4% (2 人)	46.7% (21 人)
ときどき感じる	228 人	33.3% (76 人)	20.6% (47 人)	29.8% (68 人)	25.0% (57 人)	0.9% (2 人)	27.2% (62 人)
あまり感じない	381 人	26.8% (102 人)	13.4% (51 人)	30.2% (115 人)	16.0% (61 人)	1.0% (4 人)	18.4% (70 人)
ほとんど感じない	306 人	14.7% (45 人)	6.9% (21 人)	16.7% (51 人)	15.4% (47 人)	0.7% (2 人)	10.1% (31 人)

	回答者実数	うつ傾向	認知機能低下	I A D L の低下	知的能動性の低下	社会的役割の低下
よく感じる	45 人	91.1% (41 人)	60.0% (27 人)	40.0% (18 人)	68.9% (31 人)	77.8% (35 人)
ときどき感じる	228 人	64.9% (148 人)	46.5% (106 人)	20.2% (46 人)	45.2% (103 人)	62.3% (142 人)
あまり感じない	381 人	28.3% (108 人)	36.7% (140 人)	12.9% (49 人)	34.1% (130 人)	53.8% (205 人)
ほとんど感じない	306 人	14.7% (45 人)	25.8% (79 人)	12.4% (38 人)	32.0% (98 人)	47.4% (145 人)

(9) 孤食のリスク者割合の比較

リスク者割合を孤食の状況別で見ると、ほとんどの項目で大きな差は見られないが、6項目で、だれかと食事をともにする機会が「ほとんどない」と回答した人でリスク者割合が高くなっています。特に「うつ傾向」、「IADLの低下」、「知的能動性の低下」、「社会的役割の低下」はほかに比べ割合が大きくなる傾向にあります。

リスク者割合の比較（孤食の状況別）

	回答者実数	総合事業	運動器の機能低下	転倒リスク	閉じこもり傾向	低栄養の傾向	口腔機能低下
毎日ある	488 人	23.6% (115 人)	12.3% (60 人)	23.6% (115 人)	15.2% (74 人)	0.2% (1 人)	16.8% (82 人)
週に何度かある	119 人	31.1% (37 人)	15.1% (18 人)	32.8% (39 人)	15.1% (18 人)	1.7% (2 人)	22.7% (27 人)
月に何度かある	183 人	27.9% (51 人)	14.8% (27 人)	26.8% (49 人)	21.9% (40 人)	2.7% (5 人)	21.3% (39 人)
年に何度かある	87 人	28.7% (25 人)	20.7% (18 人)	33.3% (29 人)	29.9% (26 人)	1.1% (1 人)	16.1% (14 人)
ほとんどない	83 人	30.1% (25 人)	24.1% (20 人)	28.9% (24 人)	25.3% (21 人)	1.2% (1 人)	25.3% (21 人)

	回答者実数	うつ傾向	認知機能低下	IADLの低下	知的能動性の低下	社会的役割の低下
毎日ある	488 人	32.0% (156 人)	34.8% (170 人)	15.2% (74 人)	31.6% (154 人)	52.7% (257 人)
週に何度かある	119 人	34.5% (41 人)	41.2% (49 人)	16.8% (20 人)	36.1% (43 人)	49.6% (59 人)
月に何度かある	183 人	33.3% (61 人)	36.1% (66 人)	11.5% (21 人)	41.0% (75 人)	48.1% (88 人)
年に何度かある	87 人	41.4% (36 人)	39.1% (34 人)	14.9% (13 人)	49.4% (43 人)	66.7% (58 人)
ほとんどない	83 人	51.8% (43 人)	37.3% (31 人)	27.7% (23 人)	56.6% (47 人)	81.9% (68 人)

(10) BMI 別リスク者割合の比較

リスク者割合をBMI別で見ると、「低体重(やせ型)」は、すべての項目でリスク者割合が最も高くなっています。特に、「社会的役割の低下」は6割、「総合事業(の対象者)」、「うつ傾向」が5割と高いです。

リスク者割合の比較 (BMI別)

	回答者実数	総合事業	運動器の機能低下	転倒リスク	閉じこもり傾向	低栄養の傾向	口腔機能低下
低体重(やせ型)	26人	50.0% (13人)	19.2% (5人)	30.8% (8人)	19.2% (5人)	38.5% (10人)	30.8% (8人)
普通体重	557人	24.8% (138人)	12.2% (68人)	26.6% (148人)	18.0% (100人)	0.0% (0人)	19.9% (111人)
肥満	347人	27.7% (96人)	17.9% (62人)	26.5% (92人)	18.2% (63人)	0.0% (0人)	16.7% (58人)

	回答者実数	うつ傾向	認知機能低下	IADLの低下	知的能動性の低下	社会的役割の低下
低体重(やせ型)	26人	50.0% (13人)	42.3% (11人)	19.2% (5人)	46.2% (12人)	61.5% (16人)
普通体重	557人	34.5% (192人)	38.6% (215人)	14.2% (79人)	36.3% (202人)	53.1% (296人)
肥満	347人	34.0% (118人)	32.9% (114人)	16.1% (56人)	38.9% (135人)	56.5% (196人)

(11) 喫煙の有無別リスク者割合の比較

リスク者割合を喫煙の有無別で見ると、喫煙者(「ほぼ毎日吸っている」、「時々吸っている」)は、8項目でリスク者割合が最も高くなっていますが、「知的能動性の低下」以外の項目では喫煙の有無では大きな差はみられません。「うつ傾向」においては、「吸っていたがやめた」のリスク割合が最も高く、ストレス等によりリスクが高まる可能性があります。

リスク者割合の比較 (喫煙の有無別)

	回答者実数	総合事業	運動器の機能低下	転倒リスク	閉じこもり傾向	低栄養の傾向	口腔機能低下
ほぼ毎日吸っている	70人	27.1% (19人)	20.0% (14人)	22.9% (16人)	20.0% (14人)	4.3% (3人)	21.4% (15人)
時々吸っている	6人	16.7% (1人)	16.7% (1人)	33.3% (2人)	16.7% (1人)	0.0% (0人)	16.7% (1人)
吸っていたがやめた	241人	26.6% (64人)	10.0% (24人)	27.4% (66人)	16.6% (40人)	0.8% (2人)	23.2% (56人)
もともと吸っていない	651人	26.3% (171人)	17.2% (112人)	27.6% (180人)	19.8% (129人)	0.8% (5人)	17.7% (115人)

	回答者実数	うつ傾向	認知機能低下	IADLの低下	知的能動性の低下	社会的役割の低下
ほぼ毎日吸っている	70人	34.3% (24人)	25.7% (18人)	20.0% (14人)	60.0% (42人)	68.6% (48人)
時々吸っている	6人	16.7% (1人)	33.3% (2人)	16.7% (1人)	16.7% (1人)	66.7% (4人)
吸っていたがやめた	241人	41.9% (101人)	35.7% (86人)	14.5% (35人)	38.6% (93人)	55.6% (134人)
もともと吸っていない	651人	33.5% (218人)	38.2% (249人)	16.1% (105人)	35.5% (231人)	53.6% (349人)

(12) 飲酒の有無別リスク者割合の比較

リスク者割合を飲酒状況別で見ると、ほとんどの項目で飲酒者（「ほぼ毎日飲む」、「時々飲む」）よりも、飲酒をしない人のリスク者割合が高くなっています。「ほぼ毎日飲む」と「もともと飲まない」のリスク者割合の差を見ると、「閉じこもり傾向」は 19.2 ポイント、「運動器の機能低下」は 18.5 ポイント、「総合事業(の対象者)」は 14.0 ポイントと飲酒する人に比べて飲酒をしない人のリスクが高くなります。

リスク者割合の比較（飲酒の有無別）

	回答者実数	総合事業	運動器の機能低下	転倒リスク	閉じこもり傾向	低栄養の傾向	口腔機能低下
ほぼ毎日飲む	135 人	17.0% (23 人)	3.7% (5 人)	25.9% (35 人)	6.7% (9 人)	0.7% (1 人)	18.5% (25 人)
時々飲む	179 人	19.0% (34 人)	7.3% (13 人)	25.1% (45 人)	14.5% (26 人)	0.0% (0 人)	15.1% (27 人)
ほとんど飲まない	247 人	29.6% (73 人)	17.0% (42 人)	27.9% (69 人)	18.2% (45 人)	0.8% (2 人)	19.8% (49 人)
もともと飲まない	406 人	31.0% (126 人)	22.2% (90 人)	28.1% (114 人)	25.9% (105 人)	1.7% (7 人)	21.4% (87 人)

	回答者実数	うつ傾向	認知機能低下	I A D L の低下	知的能動性の低下	社会的役割の低下
ほぼ毎日飲む	135 人	28.1% (38 人)	32.6% (44 人)	10.4% (14 人)	40.0% (54 人)	62.2% (84 人)
時々飲む	179 人	35.8% (64 人)	31.8% (57 人)	12.8% (23 人)	30.2% (54 人)	48.6% (87 人)
ほとんど飲まない	247 人	37.7% (93 人)	40.1% (99 人)	14.6% (36 人)	42.9% (106 人)	52.2% (129 人)
もともと飲まない	406 人	36.5% (148 人)	38.7% (157 人)	20.2% (82 人)	37.9% (154 人)	57.4% (233 人)

(13) 暮らしの状況(経済的)別リスク者割合の比較

リスク者割合を暮らしの状況(経済的)別で見ると、「大変苦しい」という回答では、全ての項目でリスク者割合が最も高くなっています。同じく暮らしが苦しいと回答している「やや苦しい」と比べても、「総合事業(の対象者)」、「転倒リスク」、「閉じこもり傾向」、「口腔機能低下」「うつ傾向」、「認知機能低下」、「知的能動性の低下」などの7項目で、10ポイント以上の差があります。

リスク者割合の比較(暮らしの状況別)

	回答者実数	総合事業	運動器の機能低下	転倒リスク	閉じこもり傾向	低栄養の傾向	口腔機能低下
大変苦しい	57人	47.4% (27人)	22.8% (13人)	49.1% (28人)	36.8% (21人)	3.5% (2人)	38.6% (22人)
やや苦しい	240人	30.0% (72人)	19.2% (46人)	30.8% (74人)	22.1% (53人)	1.3% (3人)	23.8% (57人)
ふつう	585人	23.6% (138人)	13.5% (79人)	24.1% (141人)	17.6% (103人)	0.5% (3人)	16.6% (97人)
ややゆとりがある	65人	23.1% (15人)	15.4% (10人)	24.6% (16人)	3.1% (2人)	1.5% (1人)	13.8% (9人)
大変ゆとりがある	7人	14.3% (1人)	0.0% (0人)	14.3% (1人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	14.3% (1人)

	回答者実数	うつ傾向	認知機能低下	IADLの低下	知的能動性の低下	社会的役割の低下
大変苦しい	57人	64.9% (37人)	52.6% (30人)	21.1% (12人)	71.9% (41人)	70.2% (40人)
やや苦しい	240人	42.9% (103人)	38.3% (92人)	17.1% (41人)	44.6% (107人)	61.3% (147人)
ふつう	585人	31.1% (182人)	34.9% (204人)	15.6% (91人)	32.3% (189人)	53.2% (311人)
ややゆとりがある	65人	26.2% (17人)	32.3% (21人)	9.2% (6人)	32.3% (21人)	46.2% (30人)
大変ゆとりがある	7人	14.3% (1人)	14.3% (1人)	0.0% (0人)	28.6% (2人)	28.6% (2人)